



2021年度

環境社会活動報告書

Environmental and Social Report

これからも、ずっと、輝く未来。

Activate Your Life



日華化学株式会社

Contents

2021年度 環境社会活動報告書について	3	サステナビリティトップメッセージ	8
コーポレートウェブサイト	3	サステナビリティコンセプト	8
トップメッセージ	4	SDGsへの取り組み	8
経営理念	6	マテリアリティ（重要課題）	9
会社概況	7		

環境 Environment

環境マネジメントシステム	11	環境会計	21
事業活動における環境への影響	12	海外生産拠点の環境に配慮した設備投資	21
環境目標	13	環境データ	22
トピックス	14	化学物質管理	24
・繊維化学品：Smart Dyeing Process			
・クリーニング：環境配慮型中性濃縮粉末洗剤 「シロック B-750」			
・特殊化学品：段ボール古紙対応ピッチコントロール剤 「ニッカソルト PC-100」			
・化粧品：サステナブルな社会に向けた取り組み			

社会 Social

労働安全衛生マネジメントシステム	26
労働安全衛生目標	27
安全に対する取り組み	28
地域・社会との関わり	29
品質監査、安全衛生監査、環境監査	31

Appendix

ISOマネジメントシステム認証取得状況	33
用語集	34

2021年度 環境社会活動報告書について

■ 編集方針

「2021年度 環境社会活動報告書」は、日華化学グループの環境活動や社会活動に関する取り組みをステークホルダーの皆様に向けてお伝えすることを目的として編集しています。

■ 報告対象期間

2021年1月1日～2021年12月31日

*一部、上記期間以外の情報についても報告しています。

■ 報告対象組織

日華化学株式会社

*一部、日華化学グループの情報として子会社も含めて報告しています。

*「当社」「単体」は日華化学株式会社を指します。

*各ページの上部アイコンで、日華化学株式会社と日華化学グループの情報を識別しています。

日華化学株式会社

日華化学グループ

■ 参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2018」

環境省「環境会計ガイドライン2005」

■ 発行日

2022年12月

■ 作成部署・お問い合わせ先

本報告書へのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

日華化学株式会社 環境品質・安全衛生部会

TEL：0776-24-0213（代表）

お問い合わせフォーム

<https://www.nicca.co.jp/contact/>

コーポレートウェブサイト

当社では、コーポレートウェブサイト内のお問合せフォーム、代理店向けの専用サイト、フリーダイヤル、お客様相談室などを通じて、お客様よりお寄せいただいたお問い合わせに、迅速かつ正確にお答えしています。

また、いただきましたご意見は、お客様がご満足いただける製品づくりの参考としています。

日華化学株式会社

<https://www.nicca.co.jp/>

上記のURLをクリックすると、当社コーポレートウェブサイトへアクセスできます。また、右側のQRコードからもコーポレートウェブサイトへアクセスできます。





トップメッセージ

激変する経営環境をビジネスチャンスへと昇華し、社会からますます必要とされる価値を提供する事業に注力することで、持続可能な社会の実現に貢献いたします。

代表取締役社長 江守 康昌

はじめに

ステークホルダーの皆さまには、平素より私たち日華化学グループに温かいご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年の世界経済は、2020年から続く新型コロナウイルスのパンデミック、原材料価格の高騰や物価の上昇、ロシアによるウクライナ侵攻、為替変動など先行きに対する不透明感は依然として強い状況が続いています。

このような状況の中、日華化学グループは経営理念である「世界中のお客様から最も信頼されるイノベーションカンパニー」を目指し、「Innovation（イノベーション）*1」「Efficiency（エフィシエンシー）*2」「Sustainability（サステナビリティ）*3」を軸として、未来に向けた様々な改革や挑戦に取り組んでいます。

社会からますます必要とされる価値を提供する事業に注力し、社会的課題を解決することで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

*1：イノベーションにより新しい社会課題を解決する

*2：積極的にデジタル化を推進し徹底的な効率化を図る

*3：持続可能な社会に貢献する強く活気ある企業集団の実現

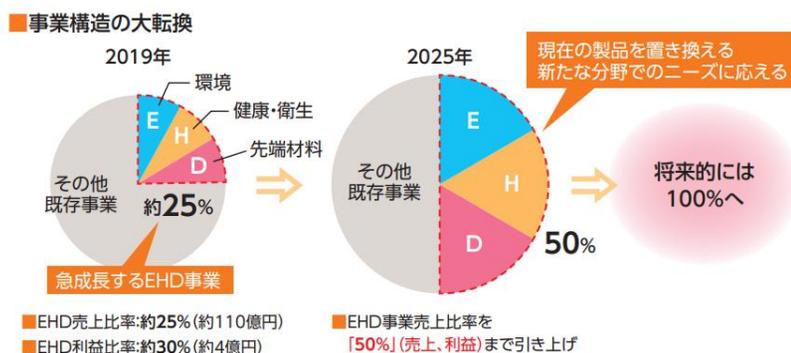
中期経営計画「INNOVATION25」について

2021年2月に公表した中期経営計画「INNOVATION25」では、不確実性の高い経営環境であっても着実に成長できる企業へとトランスフォームを成し遂げ、目標を達成するために5つの全社基本戦略を策定しました。

■「事業構造の大転換」

私たちは社会課題の解決に貢献する企業として、「Environment（環境）」「Health（健康・衛生）」「Digital（先端材料）」の3領域（EHD事業）に軸足を置いた事業構造に大きく転換しました。今後、新製品の開発テーマはすべてEHDのいずれかに紐付く、より付加価値の高い製品・技術開発に注力します。

もちろん、これまでもEHD領域で製品開発を手掛けていました。その売上高は2019年度で連結売上高の約25%を占めていましたが、新規製品など収益率の高い製品への転換が着実に進んだことにより、2021年12月期には30%へと拡大しました。2025年度にはこれを50%にまで引き上げ、将来的には100%にしていきたいと考えています。



■「生産性の改革」

世界的なDX（デジタルトランスフォーメーション）推進によるビジネス環境の激しい変化に対応するためには、データとデジタル技術を活用し、これまでとはまったく異なる新しい価値を創造しなければなりません。

当社グループはオートメーション化を推し進めていくほか、AI（人工知能）やRPA（事務作業の自動化）をはじめとしたデジタル技術への投資を積極的に推進し、2025年までに社員一人当たりの生産性（付加価値）を2020年度比で30%以上向上させることを目指しています。

■「財務基盤の強化」

2020年、コロナ禍により経営環境は一変し、売上高は2019年から10%超の大幅な減収となりました。しかし、日華化学グループの全社員が一丸となって徹底した業務改善やコストダウンをはじめとする多くの改革を実施し、財務体質を改善することができました。

2021年2月に公表した中期経営計画「INNOVATION25」の全社基本戦略
 激変する経営環境をビジネスチャンスへと昇華するため、5つの全社基本戦略を遂行します

NICCA

中期経営計画：全社基本戦略

**中期経営計画では、5つの全社基本戦略によって、不確実性の高い経営環境でも
 着実に成長するためのトランスフォーム＝『INNOVATION25』を成し遂げる**

中計スローガン

『INNOVATION25』

全社基本戦略

1	事業構造の大転換 ：「環境」「健康・衛生」「先端材料」領域への注力	Innovation
2	生産性改革 ：デジタルトランスフォーメーションの積極推進	Efficiency
3	財務基盤の強化 ：安定して成長投資できる強い財務基盤の構築	
4	サステナブル経営の推進 ：持続可能な社会への貢献	Sustainability
5	大家族主義の進化 ：ダイバーシティの推進と全社員の働きがい向上	

2020年度に大きく改善したこの財務体質を維持しながら、不確実性の高い環境にあっても機動的に成長投資を実施すべく、収益力の強化とバランスシートの圧縮によって財務基盤の一層の強化を図ります。

■「サステナブル経営の推進」

気候変動を原因とした自然災害の規模・頻度は年々増大しています。この気候変動を引き起こしている原因の一つとされているのが「温室効果ガス排出量の増加」であり、このまま現在以上の速度で増加し続けた場合、温暖化は更に加速すると予測されています（出典：環境省「地球温暖化の現状」）。

当社グループも事業活動に伴う温室効果ガスの排出を優先すべき経営課題と認識し、「2030年にグループ全体のCO₂実質排出量30%削減(2018年度比)」を経営目標として掲げています。2021年8月には、電力由来のCO₂排出量が当社グループ



内で最も多い日本において、福井県内事業所（本社・鯖江工場）にて北陸電力株式会社のグリーン特約（アクアグリーン）を導入し、水力電源100%の電力利用に全量を切り替え、福井県内事業所からの電力由来のCO₂排出量ゼロを実現しました。EHD事業の成長、ダイバーシティの推進とともに、持続可能な社会の実現、SDGs達成への貢献を目指します。

■「大家族主義の進化」

当社グループは創業以来「大家族主義」を貫いています。単に一緒に過ごすだけでなく、お互いの成長を促すような存在であり、厳しさの中にも血が通った、温かい大家族です。

先にも述べました2020年度のコロナ禍では売上高は大幅な減収となりましたが、利益は下がりませんでした。これは厳しい時代だからこそ全員で支えあった大家族主義のおかげだと思っています。

これからも激しい経営環境の変化は発生します。そして、変化に対応するためには、社員一人ひとりの成長が不可欠です。そのためにも、性別や国籍を問わず、多様な働き方で多様な人財一人ひとりが、高いモチベーションで持てる力を最大限発揮できるような職場づくりを進め、会社の成長が社員の成長にも繋がるという熱い気持ちをもって、真面目に愚直に、そしてエキサイティングに挑戦することができる会社になりたいと考えています。

おわりに

2020年はコロナ禍による試練の年、2021年はリカバリー、そして2022年は将来の日華化学をつかっていくための新しいステージへと向かう極めて重要な変革の1年です。大家族が一つとなって様々な課題に挑戦しながら「INNOVATION25」の5大戦略を遂行し、新しい日華化学グループをつかってまいります。

本書は、経営理念「お客様、社員、株主、そして社会から信頼され選ばれる企業を目指す」のもと、当社の環境・安全・社会活動に関する取り組みの現状をまとめたものです。ステークホルダーの皆さまにおかれましては、今後とも一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

経営理念

日華化学の社是・社訓は、会社が存在し続けるかぎり不変の「創業者精神」です。

経営理念は、日華化学の使命を示す「存在意義」と方向性を示す「基本的価値観」とし、社員として守るべきものを「行動基準」と位置づけ、日華化学グループの全社員に共有化されています。

経営理念

【経営理念】

お客様、社員、株主、そして社会から信頼され選ばれる企業を目指す

【全社基本ビジョン】

世界中のお客様から最も信頼されるイノベーションカンパニー

社是

- 一. われらは需要家に奉仕する
私たちはお客様と感動を共有できる高い品質を提供し続けます。
- 一. われらは会社の繁栄に徹する
私たちは絶えず進化し成長し続けます。
- 一. われらは社員の幸福を願う
私たちはひとりひとりが生き活きと働く環境をつくります。

社訓

- 一. 我れ誠実にそむくこと無かりしか
志を高く持ち、誠意をもって取り組みます。
- 一. 我れ勤勉に欠くこと無かりしか
積極果敢に挑戦し、自分を高めます。
- 一. 我れ信用をそこなうこと無かりしか
日々の努力を積み重ね、信用を築きます。

会社概況

当社グループは、界面科学と毛髪科学を基盤とし、繊維加工をはじめ、金属加工、紙・パルプ、クリーニング、メディカルの各業界向け薬剤、また化粧品などをさまざまな分野のお客様に提供する化学メーカーです。

私たちが創業以来大切にしているものの一つに、「製品を売るにあらずして技術を売る」という信条があります。その信条の通り、当社は1941年の創立から、創業地福井をはじめ、各国の世界有数の繊維産地を背景に培った技術・ノウハウを活かしながら、お客様とともに課題を解決し、技術やサービスを提供してまいります。

社名（商号）	日華化学株式会社
本社所在地	〒910-8670 福井県福井市文京4-23-1 TEL:0776-24-0213（代）
創立	1941年9月15日
資本金	28億9,854万円
代表者	代表取締役社長 江守康昌 代表取締役副社長 龍村和久
上場	東京証券取引所プライム市場、名古屋証券取引所プレミアム市場（証券コード 4463）
決算期	12月末日（6月末中間決算）
売上高	（連結）484億円（2021年12月期）
従業員数	（連結）1,454名（2021年12月31日現在）
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 繊維工業用界面活性剤の製造、販売 金属、製紙、塗料、染料、合成樹脂用界面活性剤の製造、販売 クリーニング、業務用洗剤の製造、販売 化粧品・医薬品の製造、販売
	 <p>繊維化学品</p> <p>日華化学は、1941年の繊維加工用界面活性剤の開発から始まりました。創業以来、洗い工程である精練から仕上げまでの繊維加工の一連工程を網羅し、各工程や素材ごとに必要となる多種多様な薬剤を提供しています。工程全体を俯瞰できる強みを生かし、新たなアイデアやノウハウを生かした技術開発に取り組むことで、日本のみならず世界の繊維産業をリードします。</p>
	 <p>特殊化学品</p> <p>金属や紙、プラスチック材など、モノづくりに欠かせない素材が製造・加工される際にも、界面活性剤は重要な役割を担います。日華化学は、洗浄剤や消泡剤をはじめとする工程薬剤、素材に付加価値を与える機能薬剤などの製造・提供で、モノづくりの現場を科学で支えています。</p>
	 <p>機能化学品</p> <p>昨今の安全性・快適性需要拡大に対し、日華化学が長年培った界面科学、樹脂技術で高機能・複合要素ニーズに貢献します。環境に配慮したウレタン樹脂、フッ素、シリコン、アクリル等幅広い機能化学素材、合成、複合化技術及び高度な生産技術にて、お客様のモノ作りにスピーディにお応え致します。</p>
	 <p>クリーニング</p> <p>繊維業界で培われた確かな経験と技術を活かし、1958年にクリーニング分野へ進出。現在では、ホームクリーニングとリネンサプライの両分野において、洗いから仕上げに至るまでの各工程で使用される薬剤を製造・販売しております。「環境に配慮した人と暮らしにやさしい薬剤」をコンセプトに、皆様に安全で安心してお使いいただける製品を提供します。</p>
	 <p>メディカル</p> <p>業務用クリーニングの薬剤を開発してきた知見を生かし、より高度な技術と品質が求められる医療・福祉現場の洗浄分野にも展開しています。「洗浄」をキーワードとして、各種医療器具専用の洗浄剤・消毒剤の協業開発や、衛生管理製品の開発も行っています。</p>
 <p>先端材料</p> <p>近年、高度化する市場要求に対応するために、ナノ構造材料を用いた新しい用途への応用開発が不可欠となっております。ナノテクノロジーに欠かせない界面科学の知見を活かし、ナノ粒子、電子材料等、さまざまな技術展開を進めています。</p>	
 <p>化粧品</p> <p>「洗う」「滑りをよくする」「染める」など、繊維部門で培った技術を同じく「繊維」である毛髪に応用。「お客様の髪の健康と美しさの追求」をテーマとするブランド「デミ コスメティクス」を展開し、研究開発を行っています。市場の声に耳を傾けて開発されるヘアカラー・パーマ剤や、ヘアケア・スタイリング製品等を通じて、豊かで快適な生活に貢献しています。</p>	

サステナビリティトップメッセージ

当社グループは、全社基本ビジョンである「世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニー」を目指し、経営軸の一つに「サステナビリティ」を定めています。

私たちの考える「サステナビリティ」とは、環境や社会の変化に積極的に対応し、付加価値の高い製品やサービスを提供することで人々の暮らしを豊かに輝かせ続けることです。2025年までの中期経営計画「INNOVATION25」においても、「Environment（環境）」「Health（健康・衛生）」「Digital（先端材料）」の3つの領域（EHD事業）に軸足を置いた事業構造に大きく転換し、社会課題の解決に貢献することを目指しております。

Activate Your Life —これからも、ずっと、輝く未来。—を合言葉に、これからも当社グループの持続的成長とともに、未来に渡り、社会・地球環境の持続可能な発展に貢献してまいります。

サステナビリティコンセプト

Activate Your Life —これからも、ずっと、輝く未来。—

これからも、ずっと、輝く未来。

Activate Your Life



NICCAの象徴である「Activate」という言葉に、2つの想いをこめています。

ひとつめは、わたしたちが製造・販売している界面活性剤は surface active agent といい、その技術で、人々の暮らし、社会を豊かにし、輝く未来を作っていきたい、という想い。

ふたつめは「活性化する」「輝かせる」という意味から、一人ひとりの暮らしや人生（Your Life）が生き活きと輝くものにしていける、activate な存在でありたい、という想い。

私たちはこの想いを実現し続けることで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

SDGsへの取り組み

<界面科学と毛髪科学を基盤として、私たちの暮らしを、未来を輝かせる>
事業活動を通じ持続可能な世界を目指すSDGsに取り組みます。

1941年の創立以来大切にしてきた、「製品を売るにあらずして技術を売る」というNICCAスタイルを変えることなく事業継続すると同時に、「私たちの暮らし（地球～地域）を」「未来を」輝かせるために国際社会で合意された「持続可能な開発目標(SDGs)*」の達成に貢献していきます。

日華化学グループとして【経営理念：お客様、社員、株主、そして社会から信頼され選ばれる企業を目指す】ためにも、事業を通じて社会に対し新たな価値・技術を創出し、未来からも選ばれる、企業になるために、一步一步前へ進み続けます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

マテリアリティ（重要課題）

当社グループは、中期経営計画「INNOVATION25」にて「サステナブル経営の推進」を全社基本戦略の1つに掲げています。サステナブル経営を推進するにあたり、当社グループの事業活動及び社会動向を踏まえて、2021年12月に「環境」「暮らし」「社会」をマテリアリティ（重要課題）として特定しました。2030年までにグループ全体のCO₂実質排出量を30%削減（2018年比）することを新たに経営目標に加える等、社会に貢献する企業として、これまで以上に積極的な取組みを推進してまいります。



環境：地球環境をもっときれいに

- 2030年、グループ全体のCO₂実質排出量を30%削減へ（2018年比）
- 地球環境に関する社会的課題を解決する事業に注力することで、持続可能な社会と循環型経済の実現に貢献
- 「ケミカルグリーンコンセプト」を掲げ、化学物質の管理強化とお客様の環境負荷低減に寄与
- 環境に配慮した容器・包装材料の使用を積極的に推進
- 省資源、省エネルギー活動の実施



暮らし：人々の暮らしと生活を快適に

- 世界中の人々の健康と豊かな暮らしに貢献する事業への注力
- スポーツアパレルへの機能加工やクリーニング用薬剤など健康で清潔な暮らしに貢献する製品を提供
- 髪のパフォーマンスと美しさを追及する画期的な化粧品の開発
- 抗菌・抗ウイルス製品で感染症予防に貢献
- デジタルデバイスや半導体など先端情報技術分野で必要とされる技術・材料領域での新規事業を創出・育成



社会：社会をより豊かに

- 多様な人材が集い、高いモチベーションで持てる力を最大限発揮できるように"大家族主義"を進化させる
- 「人材」の多様性と「働き方」の多様性を尊重するダイバーシティの深耕
- 社員の「働きがい」向上に繋がる様々な取組みを実施
- 地域社会との共生と住み良いまちづくりへの貢献
- 新興国からの留学生支援や身体障害者への奨学支援を積極的に実施
- 健康経営の推進

環境

Environment

環境活動に関する取り組みのトピックスを以下のようにまとめました

- 環境マネジメントシステム
- 事業活動における環境への影響
- 環境目標
- トピックス
 - ・繊維化学品 : Smart Dyeing Process
 - ・クリーニング : 環境配慮型中性濃縮粉末洗剤「シロック B-750」
 - ・特殊化学品 : 段ボール古紙対応ピッチコントロール剤「ニッカソルト PC-100」
 - ・化粧品 : サステナブルな社会に向けた取り組み
- 環境会計
- 海外生産拠点の環境に配慮した設備投資
- 環境データ
- 化学物質管理

環境マネジメントシステム

当社は環境マネジメントシステムであるISO14001（環境マネジメントシステム）を環境活動の基盤とし、環境方針を定めて環境活動に取り組むことで、ケミカルグリーンコンセプト「全員参加で自ら築くやさしい環境」を実践しています（下図参照）。様々な化学物質を取り扱う化学メーカーとしての社会的責任を果たすため、今後も継続的に環境活動を推進してまいります。

■ 環境方針

理念

わたしたちは、環境や社会の変化に積極的に対応し、付加価値の高い製品やサービスを提供することで、持続可能な社会の実現に貢献いたします。

環境活動指針

わたしたちは、環境に配慮した製品を提供します。

1.
 - ① CO₂削減をはじめとしたお客様での環境負荷の低減に貢献します。
 - ② 自然由来成分、天然系素材、バイオ系原料を用いた製品開発に注力します。
 - ③ 環境に悪影響を及ぼす化学物質を適正に管理し、環境汚染の未然防止に努めます。

わたしたちは、循環型経済社会の実現に寄与します。

2.
 - ① 省資源、省エネルギー活動を実施するとともに、再生可能エネルギーの利用を積極的に推進します。
 - ② 廃棄物の発生抑制と再利用を促進し、環境負荷の低減に努めます。
 - ③ 環境に配慮した容器・包装材料の使用を積極的に推進します。

わたしたちは、持続可能な地域社会づくりに貢献します。

3.
 - ① 地域住民の一員として、社会貢献活動を積極的に推進します。
 - ② 環境関係法規制をはじめとした各種コンプライアンスを徹底します。
 - ③ 環境保全に関する適切な教育と訓練を実施し、環境意識の向上に努めます。

2022年2月1日 改訂
代表取締役社長
江守 康昌

■ ケミカルグリーンコンセプト

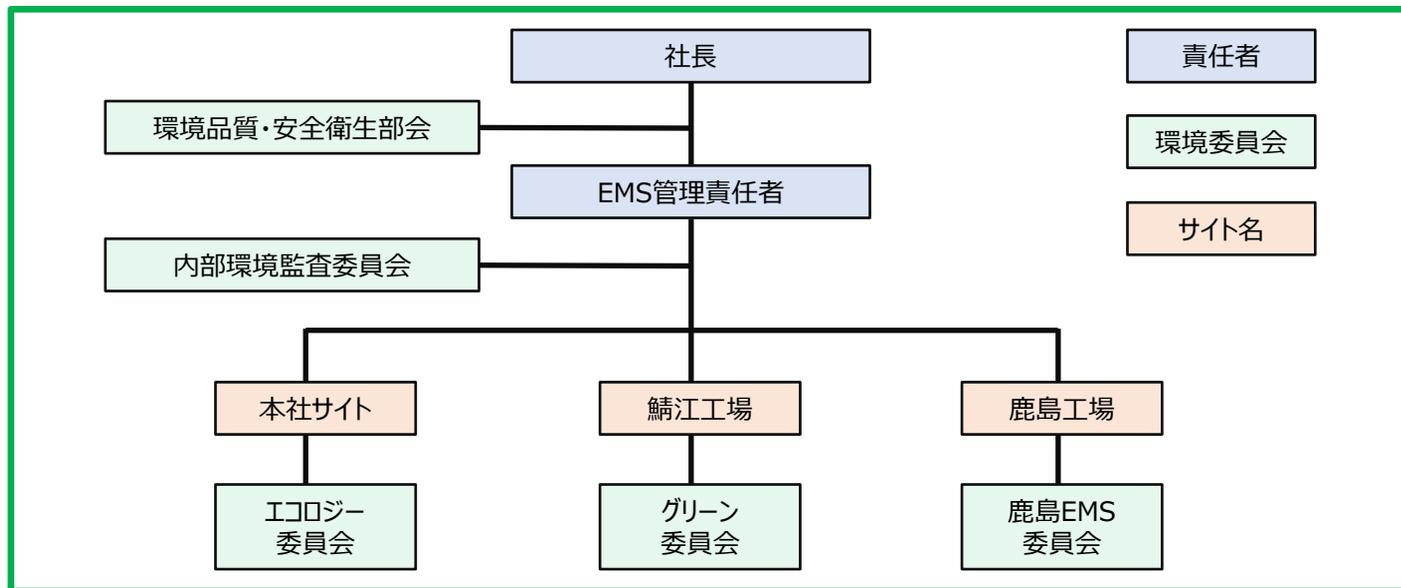
「全員参加で自ら築くやさしい環境」

- 地域のみなさまが住みやすい環境（地域満足）
- お客様が安心してお使い頂ける製品とサービス（顧客満足）
- みんなが気持ちよく働ける職場（社員満足）

日華化学株式会社

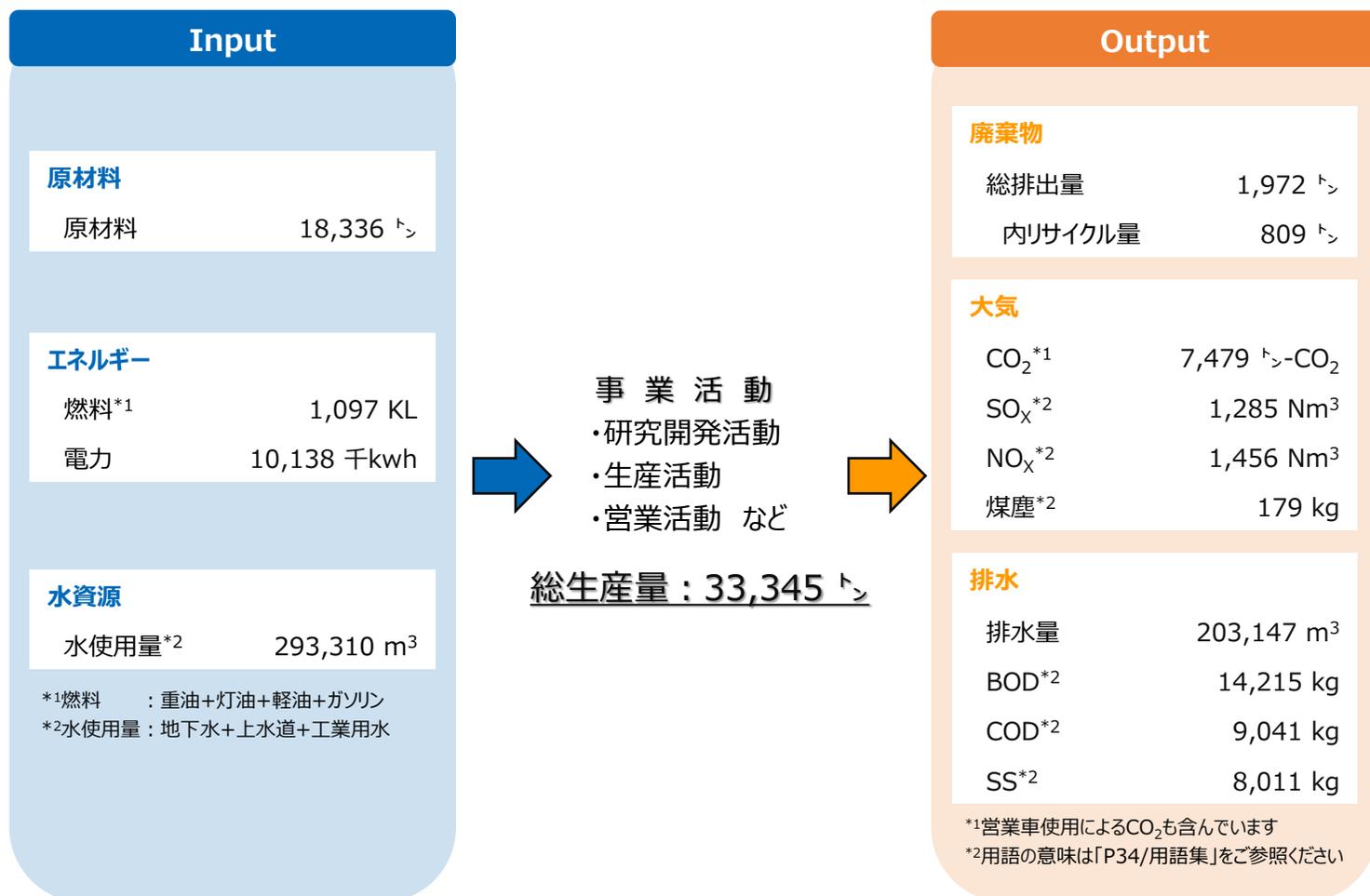
■ 環境マネジメントシステム組織図

当社の環境活動に関する管理体制は、社長が選任した環境マネジメントシステム管理責任者（EMS管理責任者）のもと、各サイトに環境委員会を設置して環境活動を推進しています。EMS管理責任者は、毎年11月下旬～12月上旬の期間中に各サイトの活動状況を社長に報告し、社長から発信される次年度の活動方針を各サイトに指示しています。



事業活動における環境への影響

当社は化学メーカーとしてエネルギーや資源を消費し（下図「Input」参照）、製品を生産し、その工程で発生する不要物を適切な環境処理のもとに排出・移動しています（下図「Output」参照）。これら事業活動における環境物質フローを一貫した管理のもとで監視し、環境負荷の低減に努めています。各環境データの詳細は「P22～P24/環境データ」をご参照ください。



*上図は日華化学単体のデータです（営業所等を含む）

日華化学株式会社

環境目標

ISO14001認証を取得している各サイト（本社サイト、鯖江工場、鹿島工場）では、毎年12月に次年度の環境目標を定め、実施計画を策定し、年間を通して様々な取り組みを実施しています。2021年度に掲げた目標と活動の達成状況は下記の通りです。未達となった目標は、次年度も取り組みを継続しています。

【自己評価】○：達成 △：一部分が未達 ×：大きく未達または進捗無し

サイト	2021年度 目標	2021年度 実績	自己 評価
本社 サイト *1	■ バイオマス容器*2の1ブランド以上採用（化粧品）	■ 1ブランド採用	○
	■ 2021年度上市製品対象容器のバイオマス容器採用60%以上（化粧品）	■ 対象容器のうち、88%に採用	○
	■ ノーマイカーデー実施によるCO ₂ 排出量削減 対2018年度比 0.5%削減	■ 8.1%削減	○
	■ 老朽化した設備の電気使用量調査	■ 電気使用量算出及び更新 対象設備のリスト化	○
	■ 灯油使用量削減 対2018年度比 3%削減	■ 9.5%削減	○
	■ 電気使用量削減 対2018年比 15%削減	■ 14%削減	△
	■ CO ₂ 削減活動のeラーニング教育 受講率（修了率）80%以上	■ 受講率50%	×
	■ 化学物質漏洩防止のeラーニング教育 受講率（修了率）80%以上	■ 受講率83%	○
■ 排水規制値の逸脱0件	■ 0件	○	
鯖江	■ CO ₂ 排出量原単位 対2018年度比 1%削減	■ 4.8%増加	×
	■ フラスコでの脱溶剤工程短縮による電気使用量20%削減	■ 43.8%削減	○
	■ 長期在庫品の廃棄量削減 対2020年比 50%削減	■ 222%増加	×
	■ 物流上での容器破損に伴う容器廃棄物削減 対2020年度比 20%削減	■ 28.6%削減	○
	■ 化学物質の工場内拡散リスクアセスメントの施策前100%実施	■ 100%実施	○
	■ 作業環境測定 第3区分*3 0件	■ 1件	×
	■ アーク溶接作業の健康障害防止措置100%実施	■ 100%実施	○
	■ 排水規制値の逸脱0件	■ 0件	○
	■ 工程管理不備及び設備誤操作による製品漏洩削減 対2020年度比 50%削減（2020年度2件発生）	■ 5件発生 ※工場内で処理したため、工場外への 漏洩は無い	×
	■ 排水量削減 対2017年度比 45%削減	■ 44%増加	○
鹿島	■ CO ₂ 排出量原単位 対2018年度比 0.5%削減	■ 6%削減	○
	■ 排水量削減 7,800m ³ /月	■ 7,412m ³ /月（5%削減）	○
	■ 廃液、ガラス、プラスチックに分別を行いリサイクル検討	■ 保管期限切れ控えサンプル 分別100%実施	○
	■ 環境事故0件	■ 0件	○

*1本社サイトは化粧品製造所も含む

*2再生可能なバイオマス資源を原料に、化学的または生物的に合成することで得られるバイオマスプラスチックを使用した容器

*3作業場所内の有害物質濃度の平均が管理濃度を超える状態

繊維化学品：Smart Dyeing Process（スマートダイイングプロセス）

■ CO₂削減、節水を実現する「Smart Dyeing Process（スマートダイイングプロセス）」

世界中のアパレル企業がCO₂削減や水使用削減をはじめとしたサステナブル生産へと転換する中、日華化学グループはアパレル産業の環境課題に貢献するソリューションとして「Smart Dyeing Process（スマートダイイングプロセス）」のご提案を開始しました。

「Smart Dyeing Process（スマートダイイングプロセス）」は持続可能な社会の実現のために、既存の精練*、染色工程を見直し工程削減・短縮、排水の公害値低減などを狙った、サステナブルな染色加工の実現を目指したソリューションの総称であり、環境負荷低減、生産効率向上、作業環境改善に貢献する加工処方です。

* 動植物の繊維から混じり物を取り除くこと



私たちは「Smart Dyeing Process（スマートダイイングプロセス）」に関するソリューションを3つの「Smart」で表現しています。

Energy Smart

「エネルギー消費・CO₂排出の削減」を提案



対象製品

- ・ Eskud M-200
- ・ Eskud RC-0100
- ・ Sanmool MC-2000
- ・ Tekisport PEEL
- ・ Nikkaconsult LM-850

Water Smart

「節水」「排水負荷低減」を提案



対象製品

- ・ Eskud M-200
- ・ Sanmool MC-2000
- ・ Sanmool WX-245
- ・ Tekisport PEEL

Work Smart

「作業環境改善」を提案



対象製品

- ・ Eskud RC-0100
- ・ Sanmool MC-2000

* 供給可能な国・エリアは製品によって異なりますので、[お問い合わせフォーム](#)よりお気軽にご連絡ください。

「Smart Dyeing Process（スマートダイイングプロセス）」の確立にはテクニカルサポートが不可欠です。当社グループは創業以来、染色加工におけるテクニカルサポートに力を入れてきました。現在では、世界10カ国、14拠点の現地スタッフが、加工処方の確立から薬剤の供給までをサポートしています。

■ポリエステル用液体還元洗浄剤：エスクード RC-0100

エスクード RC-0100は、作業者の安全と環境を考えた天然原料を主成分としたポリエステル用の液体還元洗浄*1剤です。薬剤投入時の作業性が良好で、生産性の向上に貢献します。

特徴



■作業環境改善

天然成分主体で臭気や水生環境への影響が少なく、液状品のため粉体飛散による作業環境の悪化が無い、人と環境にやさしい製品です



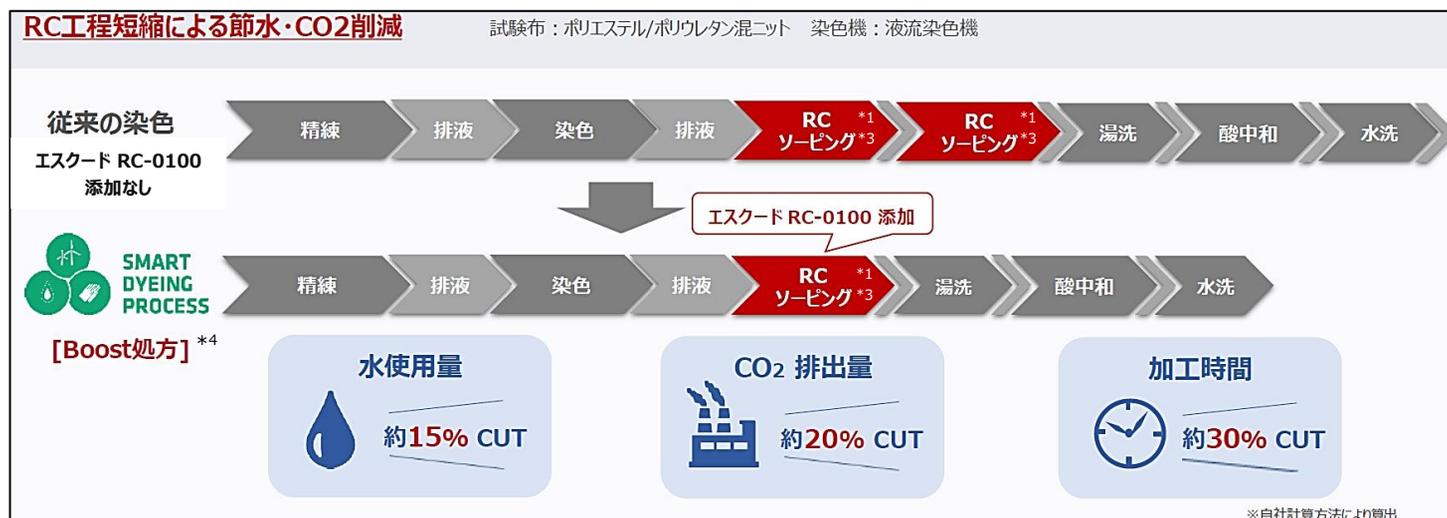
■生産効率向上

自動投入設備に対応可能で、生産効率向上に貢献します



■堅牢度向上

摩擦堅牢度*2のクリアが難しいポリエステルポリウレタン混素材に対しても加工工程の短縮と堅牢度クリアを実現しました



■ポリエステル用液体還元洗浄剤：サンモール MC-2000

サンモール MC-2000は、染色同浴RC*1を可能にした酸性浴で効果を発揮するポリエステル用の液体還元洗浄*1剤です。酸性浴 (pH=3.5~4.0) で処理することで、染色後に廃液せずに還元洗浄が可能となります。また、還元洗浄後のアルカリの中和工程が不要で、節水・時短に貢献します。

特徴



■作業環境改善

液体還元剤のため、粉体飛散による作業環境の悪化はありません



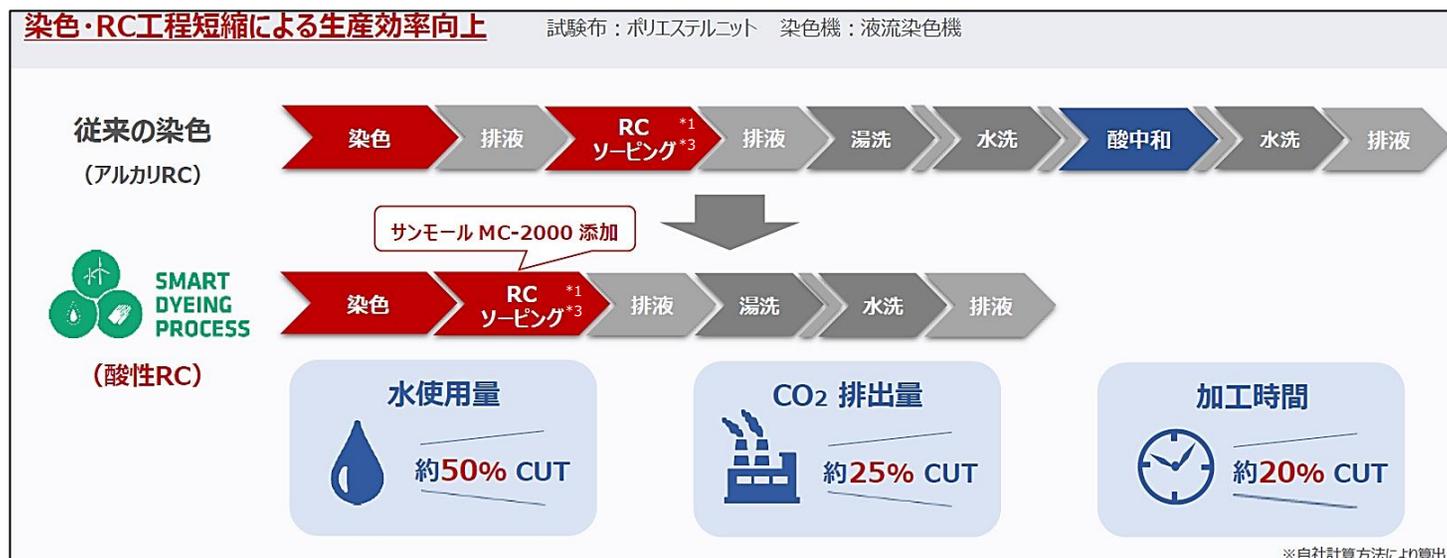
■生産効率向上

染色加工工程を大幅に短縮することで、節水・時短を実現し、生産効率向上に貢献します



■堅牢度向上

従来のアルカリRCと同等の染色堅牢度*2を維持し、高品質な染色加工布に仕上がります



*1RC (リダクションクリーニング) は還元洗浄を意味し、ポリエステルを分散染料で中濃色に染色した後に、生地表面の未固着染料を除去する

*2繊維製品における染色の丈夫さを表す度合い (染色堅牢度) 、染色されたものが摩擦によって他のものを汚染する度合い (摩擦堅牢度)

*3染色後に、生地表面についた余分な染色液 (未固着染料) や不純物や汚れなどの余計なものを還元洗浄剤を用いて取り除く処理

*4RCソーピング*3時に「エスクード RC-0100」を添加することで、還元力を押し上げる (Boost)

■ポリエステル用オリゴマー除去剤：テキSPORT PEEL

テキSPORT PEELは、ポリエステル染色の作業効率を大幅に改善する多機能なポリエステル用のオリゴマー*1除去剤です。加工工程の短縮、缶体洗浄の削減に貢献します。

特徴



■節水・省エネ

精練工程*2、缶体洗浄*3をカットし、水とエネルギーの使用量を削減します



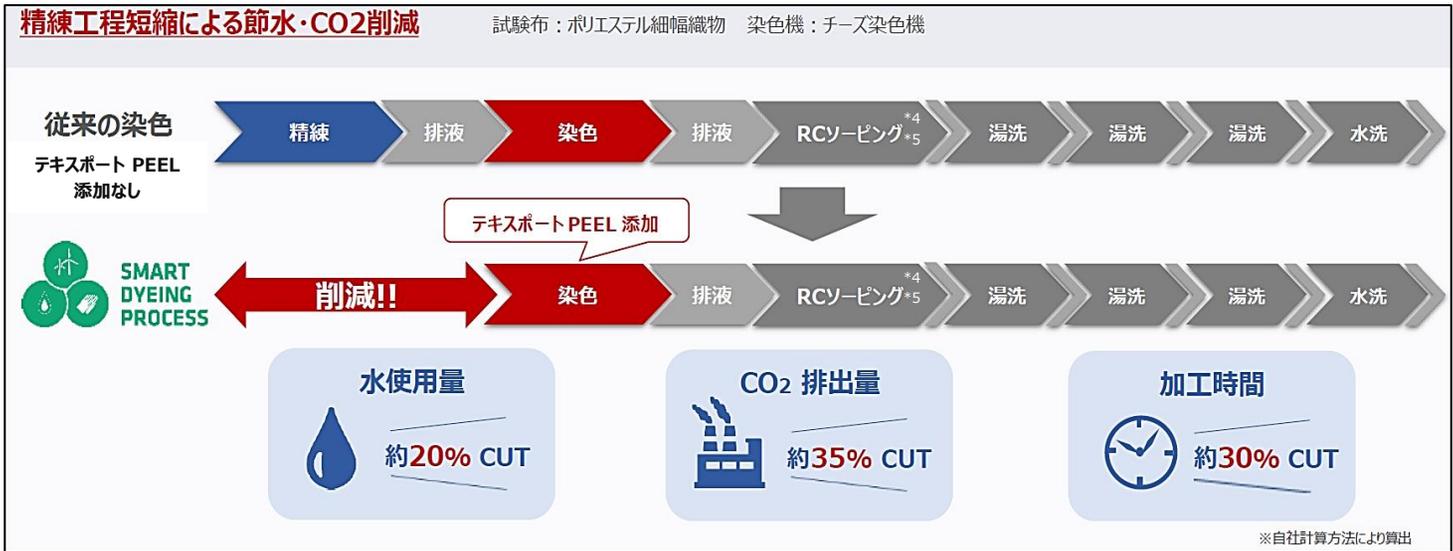
■生産効率向上

生地上のオリゴマーを剥ぎ取り発粉を防止、洗浄時は染色機へ付着したオリゴマーを強力に剥ぎ取り、缶体洗浄の効率を向上させます



■作業環境改善

糸表面のオリゴマーを除去することで、機械汚れや飛散を防ぎます



*1モノマーの結合数が2つ～3つの分子量が小さい物質のことで、ポリエステルを合成するとき副生成物として生成され、汚れや糸切れの原因となります

*2繊維・繊維製品に付着している天然不純物、油剤などを取り除く染色の前工程

*3繊維染色機の洗浄

*4染色後に、生地表面についた余分な染色液（未固着染料）や不純物や汚れなどの余計なものを還元洗浄剤を用いて取り除く処理

*5RC（リダクションクリーニング）は還元洗浄を意味し、ポリエステルを分散染料で中濃色に染色した後に、生地表面の未固着染料を除去する

日華化学株式会社

クリーニング：環境配慮型中性濃縮粉末洗剤「シロック B-750」

■環境配慮型洗剤の開発

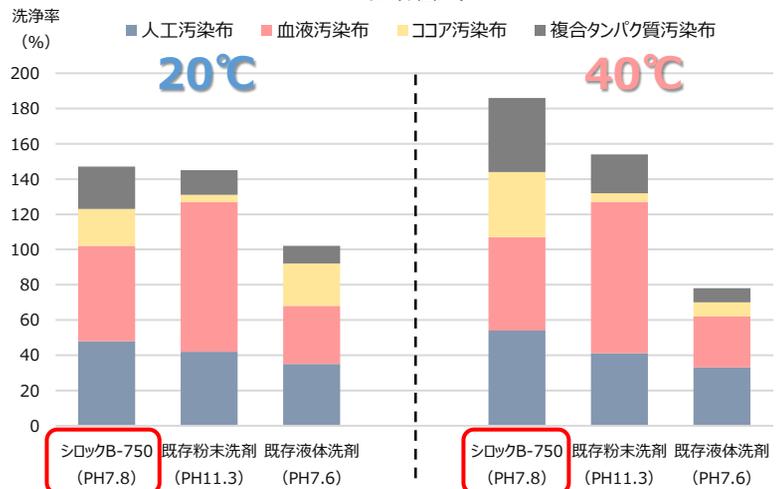
業務用クリーニング洗剤においても環境問題は避けては通れない課題です。当社は高い洗浄力そのままに、クリーニング業界で求められている環境配慮を開発コンセプトとし、「節水・省エネ・ゴミ削減」に繋がる環境配慮型中性濃縮粉末洗剤「シロック B-750」を開発しました。

「シロック B-750」は中性の粉末洗剤で、「3倍濃縮タイプ、ポリエステル対応、抗菌効果、酵素配合、移染防止効果」が特徴です。従来の中性洗剤は液体タイプが主流になっていますが、粉末にすることで、洗浄力、使い勝手が向上しました。*

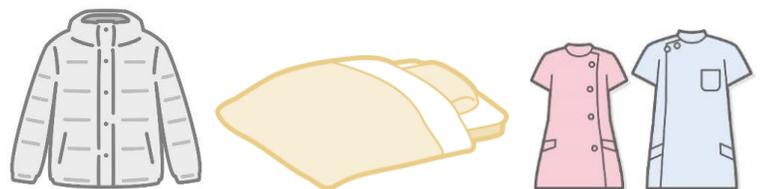
*洗剤に含まれる酵素や再汚染防止剤は、液体より粉末の方が性能が安定します

さらにポリエステル製品の洗浄性能に優れる特殊界面活性剤と酵素の技術により、低温洗浄でも高い洗浄力を実現しました。ダウンジャケットやふとん・毛布・寝具類、医療向けユニフォームなど、幅広い用途に活用することができます。

「特殊界面活性剤 + 酵素」の技術で、中性でありながらも既存のアルカリ粉末洗剤と比較しても良好な洗浄力を発揮します
(赤枠箇所)



*洗浄条件：terg-o-tometer 1L浴 90rpm 20°C、40°C×10分 最適濃度にて洗浄



汗や皮脂をはじめとした人体から発生する汚れには酵素による洗浄力が活かされます
また、中性なので手肌や繊維を傷める心配も少ないやさしい洗剤です

■「節水・省エネ・ゴミ削減」を実現

「シロック B-750」は「節水・省エネ・ゴミ削減」の3つの切り口から環境への負荷低減に貢献いたします。

	<h4>節水</h4>	<p>20kg水洗機 既存粉末洗剤との比較</p> <p>すすぎ2回処方 使用水 約320L</p> <p>→</p> <p>シロックB-750 すすぎ1回処方 使用水 約220L</p> <p>すすぎ回数が減ることで、1回あたり100L削減することができます。</p>
	<h4>省エネ</h4>	<p>20kg水洗機 既存粉末洗剤で40°Cすすぎ2回洗いとの比較</p> <p>40°C</p> <p>→</p> <p>20°C</p> <p>重油削減量 年間 約103L</p> <p>ガス削減量 年間 約100m³</p>
	<h4>ゴミ削減</h4>	<p>従来の15kg入り容器との比較</p> <p>15kg</p> <p>→</p> <p>5Kg</p> <p>段ボール重量 約57%削減</p> <p>保管スペース 約60%削減 (体積比)</p>

特殊化学品：段ボール古紙対応ピッチコントロール剤「ニッカソルト PC-100」

■ 段ボールは環境にやさしい持続可能な包装資材

私たちが手にする電化製品、食料品、飲料、青果物、日用品、事務用品、衣料品など日々の暮らしに必要な商品は、ほとんどが段ボールに包装され、安全にしっかりと保護されて届けられます。そして、役目を終えた段ボールは、そのほとんどが古紙回収業者などを通じて回収され、リサイクルされて何度も新しい段ボールに生まれ変わります。

段ボールは100%再生可能な天然素材（木材）で作られており、リサイクルシステムも確立している環境にやさしい包装資材です。日本では古紙回収・製紙・段ボールの3つの業界が三位一体となって資源循環を支えており、段ボールの古紙回収率は95%以上、古紙の利用率は90%以上を誇ります。使用済み段ボールはゴミではなく貴重な資源といえます。また、天然素材で作られているため、万が一リサイクルされずに放置された場合でも、最後には土に還るため環境に与える負荷も非常に少ないです。

（出典：全国段ボール工業組合連合会）

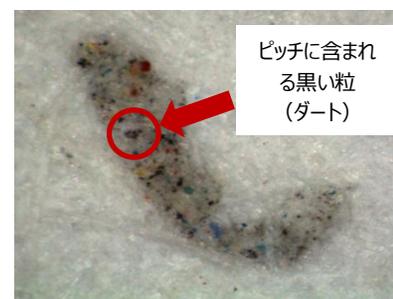
■ リサイクル工程の課題

このように段ボールは環境に対して非常に優れた包装資材ですが、循環型社会の構築に向けてリサイクルを更に進めるためには課題も残っています。その一つが、ガムテープ（布テープ）や粘着テープの混入です。

ガムテープ類の粘着面に含まれる樹脂成分はゴムと同様の性質を有しており、再生工程の中でも分散することが難しく、ピッチと呼ばれるチリや汚れとなって残ってしまいます。このピッチが機械トラブルの発生による操業への悪影響や段ボールの品質低下の原因となります。



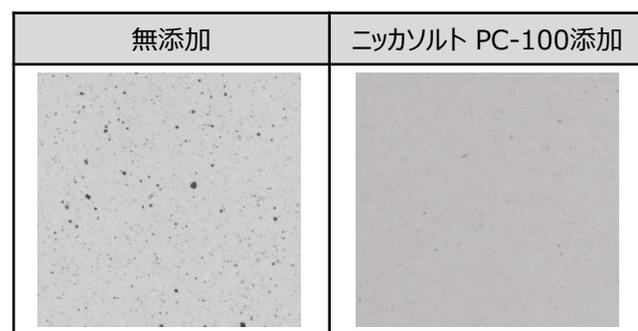
ガムテープ（布テープ）に含まれる樹脂成分がピッチの原因となります



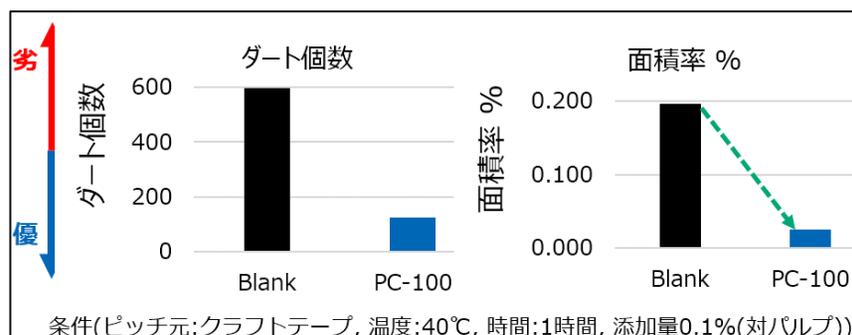
段ボール繊維に含まれるピッチの拡大写真

■ ピッチ問題の解決

このピッチ問題は段ボールのリサイクルにおける重要課題となっており、長年にわたってピッチコントロール剤（ピッチトラブルを防止する薬剤）の開発が熱望されていました。今回、新たな独自技術の開発により生まれたピッチコントロール剤「ニッカソルト PC-100」は、ピッチの「化学分解を促進」することにより、トラブルの原因となるピッチを86.8%除去することに成功しました（「ニッカソルト PC-100」無添加との比較）。



黒い粒はダートと呼ばれ、紙面では黒い斑点になります



ピッチの除去により、Blank（無添加）と比較して大きくダートを削減することができます

ピッチの除去により再生紙の品質は大きく向上します。更に、ガムテープ類が付着した低品質の古紙でも再生可能となることで、段ボールのリサイクル率促進にも繋がります。これからも段ボールのリサイクルに貢献することによって、資源循環を推進してまいります。

化粧品：サステナブルな社会に向けた取り組み

■美しい髪と、美しい環境を目指して

近年、世界全体でサステナビリティへの取り組みが広がる中、化粧品業界においてもサステナブルな社会の実現を目指すことが求められています。シャンプーをはじめとする様々な化粧品は私たちの生活と密接に関係しており、QOL（クオリティー・オブ・ライフ＝生活の質）を向上するためには欠かせない存在である一方、容器・包装で用いられているプラスチックに関する問題や、健康・環境にやさしい成分の需要が高まるなど、様々な課題が浮かび上がっています。

日華化学グループの化粧品ブランドであるDEMI COSMETICS（デミコスメティクス）とEraL（イーラル）は、自らの環境や社会への影響を把握しつつ、サステナブルな社会の実現に貢献いたします。

DEMI EraL

■バイオマスプラスチック容器の採用

バイオマスとは「動植物から生まれた、再生可能な有機資源」です。バイオマスプラスチックはトウモロコシやサトウキビなど、植物由来の原料を利用して作られています。バイオマスプラスチックを焼却する際にもCO₂は発生しますが、原料となる植物の成長過程でCO₂を吸収するため、大気中に放出されるCO₂の増減は実質ゼロ（カーボンニュートラル）となります。

DEMI COSMETICS（デミコスメティクス）とEraL（イーラル）では、一部の商品*に使用しているプラスチック容器において、サトウキビ由来のバイオマス素材を使用した環境にやさしいプラスチックを使用しています。

バイオマス配合量：約0.15%～30%



バイオマスPETのポンプ容器

詰め替え用のスマートecoパック

*以下ブランドの一部の商品にバイオマスプラスチック容器を採用しています

- EraL（イーラル）
- FLOWDIA（フローディア）
- HALEMA'O（ハレマオ）
- UTAU（ウタウ）



2021年にフルリニューアルしたFLOWDIA（フローディア）シリーズ
2022年には新たにエイジングケアラインを発売しました（写真右側から5品）

■FSC認証紙の採用

FSC®認証は、森林の抱える問題を解決しながら将来にわたり森林を利用してゆくための仕組みで、FSC®認証紙は責任ある森林管理や加工・流通の規格に則り作られています。積極的なFSC®認証紙の採用により、環境・経済両面で持続可能な森林管理を支持することができます。商品の個装箱をはじめ、カタログ、リーフレット、ペーパーバッグなどにFSC®認証紙を使用しています。

（FSC：Forest Stewardship Council 森林管理協議会）



The mark of responsible forestry

認証を受けた森林からの生産品による製品には、「FSCマーク」が表示されます



写真左側から、FSC®認証紙を採用しているブランド
 ・HALEMA'O（ハレマオ）の個装箱
 ・HALEMA'O（ハレマオ）のリーフレット
 ・UTAU（ウタウ）のペーパーバッグ

その他、FLOWDIA（フローディア）、EraL（イーラル）など、様々なブランドにてFSC®認証紙を採用しています

■「DEMI店販袋」に再生原料を使用

石油資源の節約とCO₂削減のため、「DEMI店販袋」の使用原料の80%を再生原料を使用したものに変更しました。廃棄物の焼却によるCO₂排出削減と石油資源の節約効果が見込めます。



この袋は厚さ 50 μm 以上であり、繰り返し使用することが推奨されています。
この袋は再生原料を80%使用して作られています。

■再生樹脂パレットの使用

製品の運搬に使用しているパレットは、すべて再生樹脂素材（プラスチック製容器包装などからの再生リサイクル原料）のパレットを使用することで、プラスチック資源のマテリアルリサイクル、CO₂排出削減に貢献しています。



■トランスパレンシー（透明性）サイトの公開

EraL（イーラル）ではトランスパレンシーサイトの公開を開始いたしました。<https://eral.co.jp/transparency/index.html>

トランスパレンシーとは「透明性」を意味します。EraL（イーラル）では、商品に使用する原料のトレーサビリティの把握、持続可能な世界を目指すサステナビリティの取り組み、商品の製造工程や品質へのこだわり等のクオリティ情報について、透明性をもって公開しています。



■植物由来の厳選された成分を使用

近年では価格や機能だけでなく、成分の品質や環境配慮に対する取り組みなどといった付加価値も製品選択の一つに変わってきました。DEMI（デミ）とEraL（イーラル）では、こうしたお客様のニーズに応えるために、原料の由来まで確認された、高品質な成分を採用しております。

＜主な植物由来成分と製品＞



リンゴ果実培養細胞エキス（保湿）
FLOWDIA（フローディア）シャンプー

サジーオイル（エモリエント）
※ヒポファエラムノイデス果実油



UTAU（ウタウ）全製品



プルーン酵素分解物（保湿）
Eral PREMIER（イーラル プルミア）全商品

※画像はイメージです

環境会計

当社は環境保全に関わる取り組みを進めるにあたり、自らの環境保全に関する投資額・費用額を正確に把握し、効果を知ることが効率的な取り組みをはかるために必要と考え、環境会計を作成しています。環境会計の詳細は以下のとおりです。環境会計の意味は「P34/用語集」をご参照ください。

■環境保全コスト（範囲：日華化学（単体） 期間：2021年1月～2021年12月）

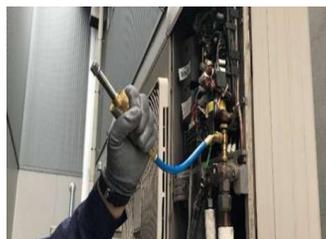
分類	補足	投資額 (百万円)	費用額 (百万円)
事業エリア内コスト	公害防止	0	75
	地球環境保全	79	25
	資源循環	0	87
上・下流コスト	容器リサイクル法の対応など	0	0
管理活動コスト	ISO取得・維持、環境測定、緑地管理など	0	37
研究開発コスト	環境対応型製品の開発など	10	14
社会活動コスト	地域活動など	0	0
環境損傷コスト	発生した環境負荷、環境影響の除去など	0	0
合計		89	238

*環境保全コストの費用額には減価償却費も含まれています *人件費、原材料費は含めていません

*研究開発コストには汎用性のある設備等も含まれていますが、環境対応製品の売上比率を用いて按分しています

■環境保全効果

環境保全効果は「P22-P24/環境データ」をご参照ください。



エアコン電力削減システム「エネデュース」
(鹿島工場)

エアコンの大きかりな修理や分解をすることなく、専用注入器で薬剤を注入するだけで、コンプレッサー内部の金属板の摩耗やキズを補修し、エアコンの性能を回復させることで省電力化が見込まれます

■環境保全対策に伴う経済効果（範囲：日華化学（単体） 期間：2021年1月～2021年12月）

効果の内容	補足	金額 (百万円)
リサイクルにより得られる収入	紙類、廃溶剤、使用容器など（回収に関わる運賃を含む）	4
（化学品）環境対応製品の売上高	自主基準により分類した環境対応製品	2,847
（化粧品）環境対応製品の売上高	FSC®認証紙やバイオマス原料を用いた容器を使用した製品	198
合計		3,049

*環境保全コストに含まれる研究開発コストの結果として、環境対応製品の売上高を環境保全対策に伴う経済効果の中に含めています

海外生産拠点の環境に配慮した設備投資

海外の生産拠点でも、積極的に環境負荷を低減する設備投資を行っています。



NICCA KOREA CO., LTD.大邱工場
(韓国)

より熱効率*の高いボイラーを導入したことにより約5.1トンのCO₂/年の削減が見込まれます

*燃料のもっている熱エネルギーが、どの位の割合で蒸気になったかを意味し、熱効率が高いほど省エネとなります



PT. INDONESIA NIKKA CHEMICALS
(インドネシア)

フォークリフトをディーゼルエンジンタイプからガスエンジンタイプへ変更したことにより、約13トンのCO₂/年の削減が見込まれます

環境データ

当社グループは、2018年を基準に「2030年、グループ全体のCO₂実質排出量30%削減」を新たな経営目標として設定したほか、各サイト単位では水資源の使用効率化や廃棄物量の削減など、様々な環境活動を実施しています。これからも地球環境保護の課題に挑み、地球環境と調和のとれた持続的発展を目指します。

CO₂排出削減への取り組み

当社グループの事業活動では、電力をはじめとしたCO₂の発生要因となる様々なエネルギーを用いています。こうした現状を踏まえ、グループ全体で最適な生産効率の確立、積極的な省エネ設備の導入、日常的な節電活動といった省エネ活動や改善活動を推進しています。

2021年度は8月から福井県内事業所（本社・鯖江工場）において北陸電力株式会社のグリーン特約（アクアグリーン）を導入し、水力電源100%の電力利用に全量を切り替え、福井県内事業所からの電力由来のCO₂排出量ゼロ*1を実現しました。

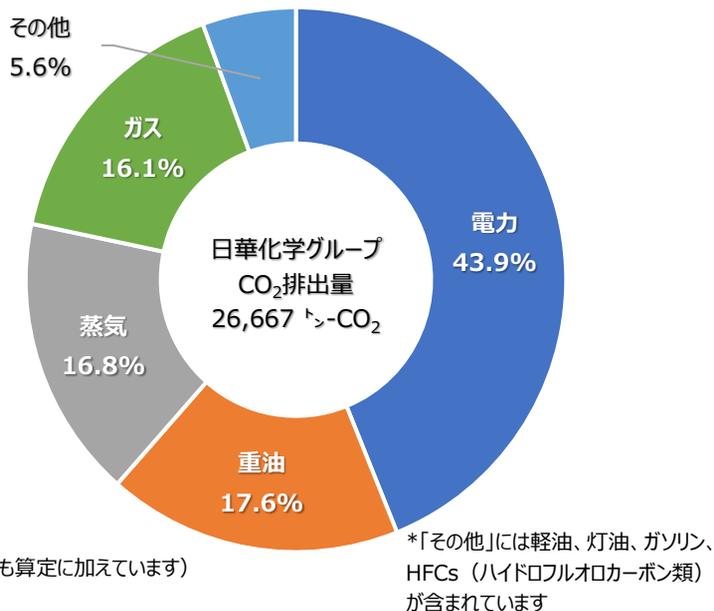
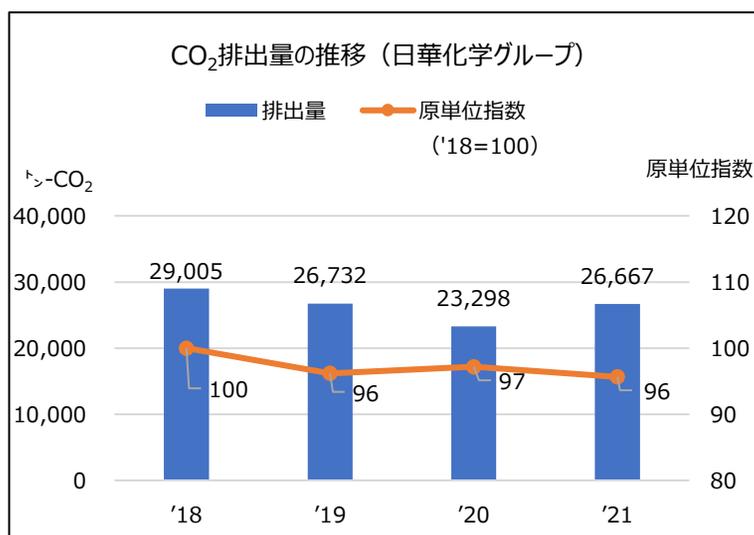
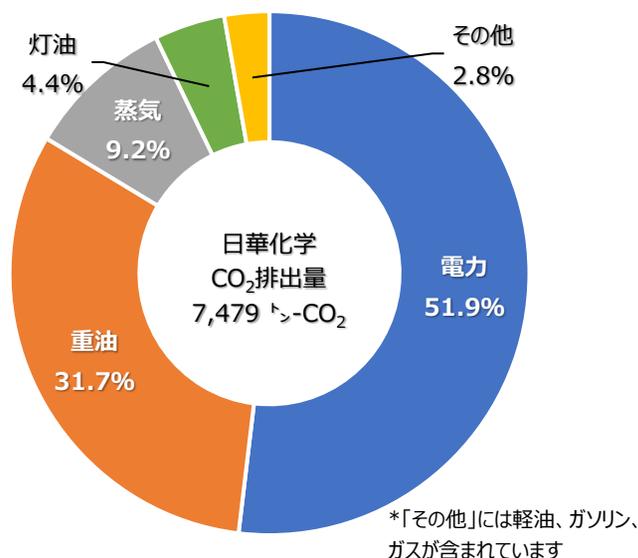
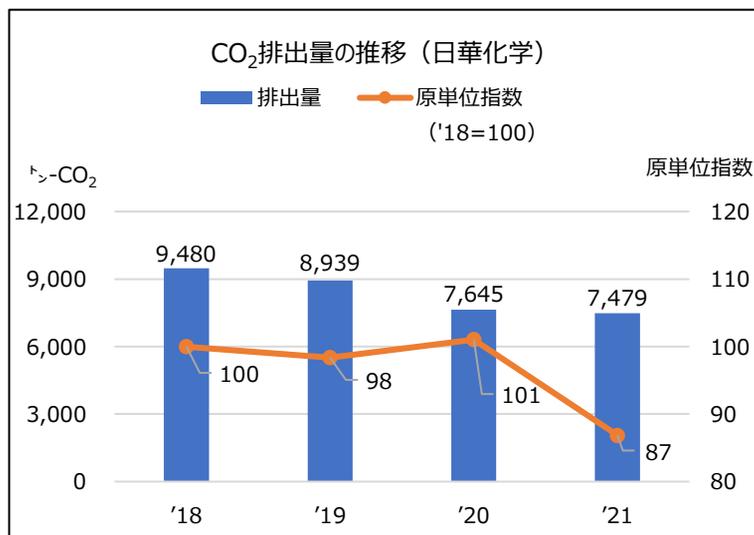
2021年度の報告はScope1*2とScope2*3に関するCO₂排出量のみ掲載していますが、現在はScope3*4の算定も進め、サプライチェーン全体のCO₂排出削減に取り組んでまいります。

*1福井県内事業所の電力由来CO₂排出量 約1,898t_{CO₂}が削減されます（2021年度1月～8月）

*2事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)

*3他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

*4Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)



*対象期間2021年1月～2021年12月（2021年度報告より営業所をはじめとした非生産部門も算定に加えています）

*CO₂量はScope1とScope2の合算値です

*削減活動の成果を把握するため、排出係数を固定して計算しています

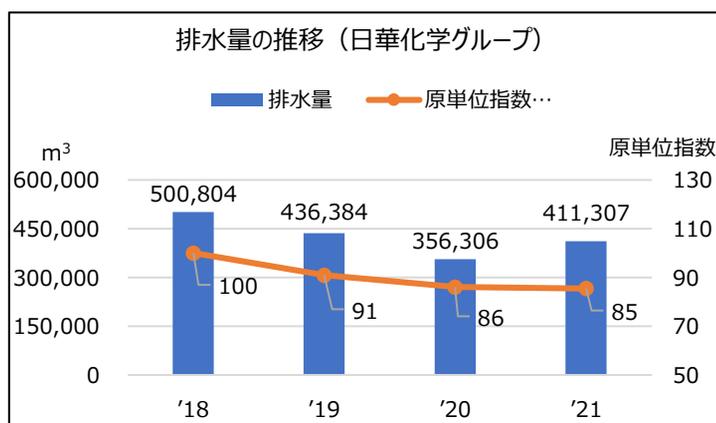
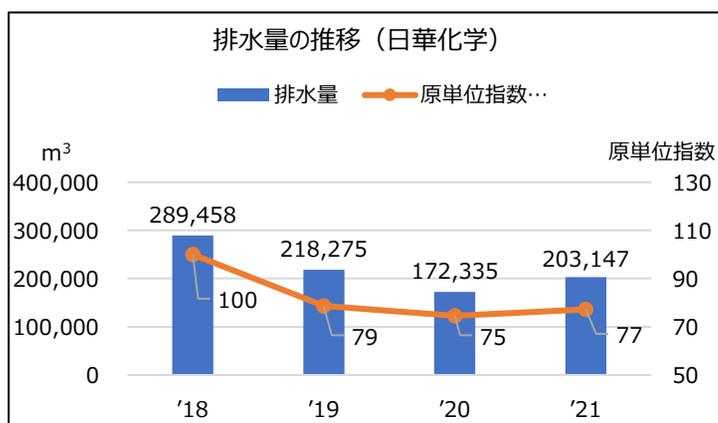
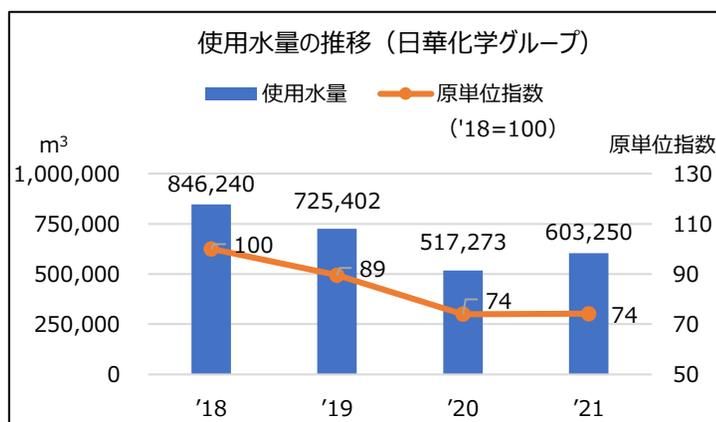
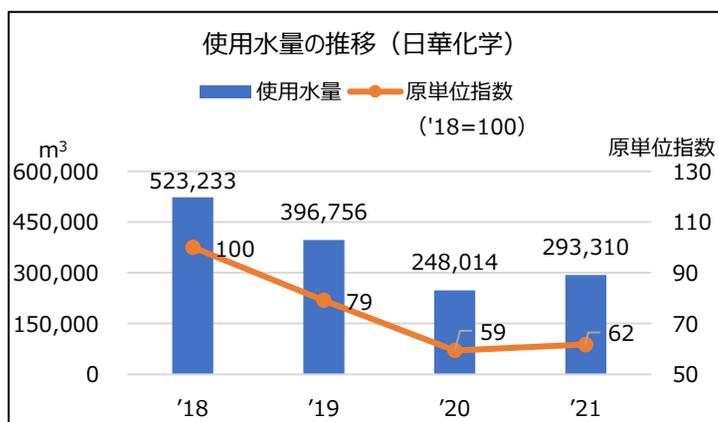
*原単位は生産量（t_{CO₂}）で除した値とし、'18年度を100としています

■ 水資源の使用効率化への取り組み

水の使用量は、製品原料としての水分、生産に用いる設備や機器の洗浄水が大きな割合を占めます。また、排水量は生産に用いる設備や機器の洗浄水が大きな割合を占めます。排水中には化学物質が含まれやすいため、特に排水量の削減に力を入れ、環境負荷の低減に取り組んでいます。排水量削減の主な取り組み事例として、生産に用いる設備や機器の洗浄方法の見直しが挙げられます。洗浄方法の見直しは海外も含めた工場間で情報共有し、常に排水量の削減を意識しながら生産活動を行っています。

<トピックス>

- ・2019年は関東工場が閉鎖（7月）、洗浄時に高圧洗浄機を用いるなど洗浄方法の見直しにより、使用量・排水量ともに減少（日華化学）
- ・2020年は新型コロナウイルスの影響により生産量が減少（日華化学、日華化学グループ）
- ・2021年から(株)レラコスメチックを追加（日華化学グループ）



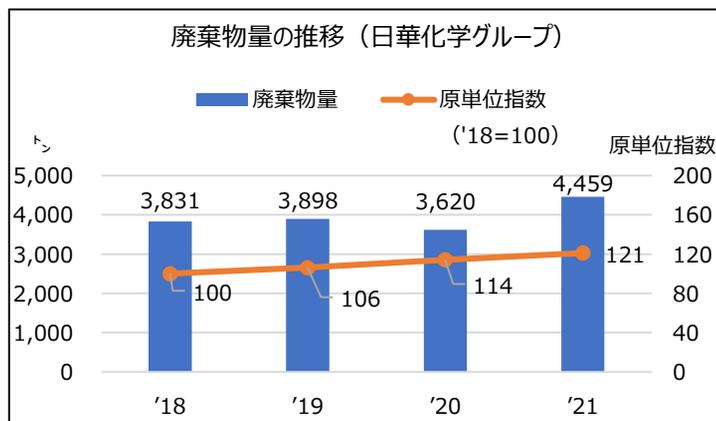
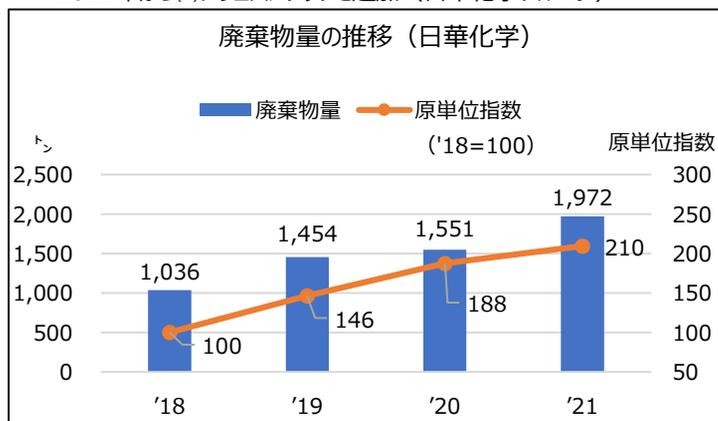
*対象期間2021年1月～2021年12月 *原単位は生産量（ト）で除した値とし、'18年度を100としています

■ 廃棄物量削減の取り組み

廃棄物量は生産量や長期在庫製品の廃棄量、工場の構造変更（設備の新規設置や変更など）によって生じる建設資材の廃棄量で大きく変化します。従前より取り組んでいる削減活動を継続し、廃棄物量の削減に努めてまいります。

<トピックス>

- ・2018年に本社サイトの廃棄物受け入れ先である産業廃棄物処理公社の稼働が一時的に停止、稼働が再開した2019年にまとめて排出したことにより廃棄物量が増加（日華化学）
- ・2021年は鹿島工場では水系ウレタン樹脂製品の生産増加、鯖江工場では釜洗浄水の回収強化により廃棄物量が増加（日華化学）
- ・2021年から(株)レラコスメチックを追加（日華化学グループ）



*対象期間2021年1月～2021年12月 *原単位は生産量（ト）で除した値とし、'18年度を100としています

化学物質管理

当社は、大気中や水中をはじめとした環境への化学物質排出に細心の注意を払っています。環境への化学物質排出量は、製品に含まれる成分、生産量、廃棄物量などにより大きく変化しますが、基準値を超えることがないよう定期的なモニタリングを実施し、必要に応じて設備投資や設備のメンテナンスなどを行っています。

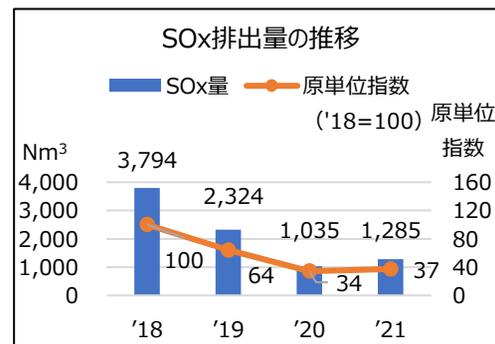
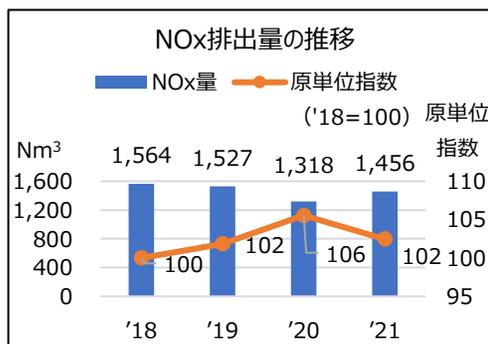
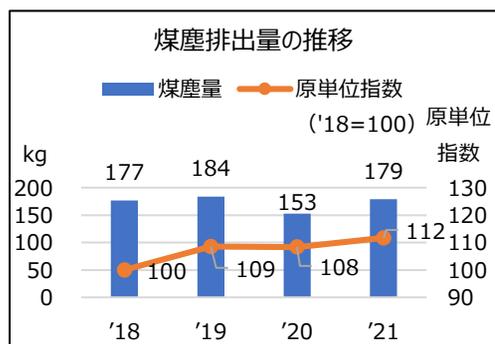
環境への化学物質排出量は定期的に外部の測定機関により測定しています*1。また、本社は福井県知事から計量証明事業所*2の登録を受けており、毎月、各サイト（本社サイト、鯖江工場、鹿島工場）から届く排水などのサンプルから化学物質排出量を測定しています。

2021年度も各サイトともに環境への化学物質排出量が法令・条令で定められている基準値内であることを確認しました。

*1大気汚染物質（1回/年）、水質汚染物質（1回/月）

*2計量法第107条の規定に基づき、その所在地を管轄する都道府県知事の登録を受けた事業所

■ 大気汚染物質（ボイラーの燃焼排気ガス中に含まれる煤塵（ばいじん）、NOx、SOx排出量の推移）

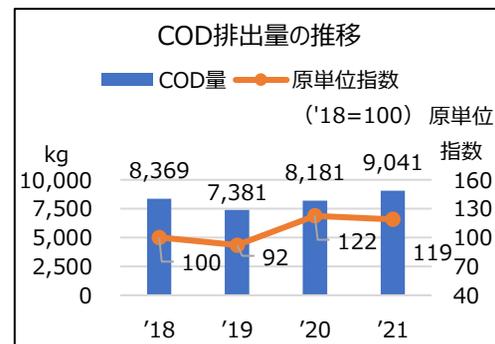
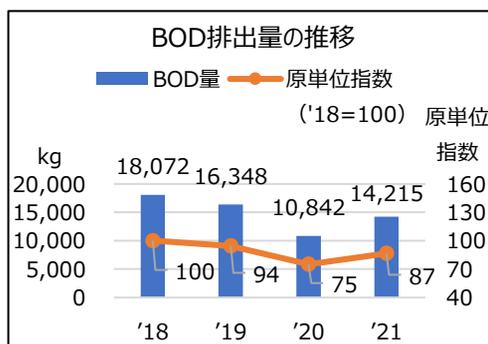
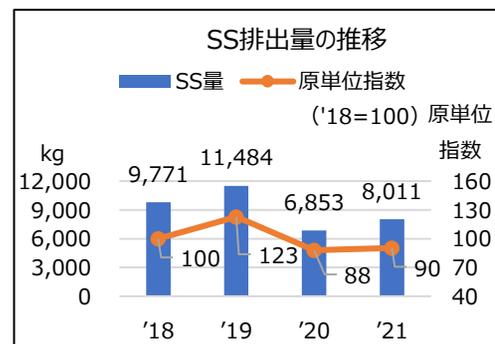


*対象期間2021年1月～2021年12月 *原単位は生産量 (ト) で除した値とし、'18年度を100としています

*社内での測定結果を元に、稼働日数と稼働時間から年間の排出量を算定しています

*Nm³、煤塵、NOx、SOxの意味は「P34/用語集」をご参照ください

■ 水質汚染物質（排水中に含まれるSS、BOD、COD排出量の推移）



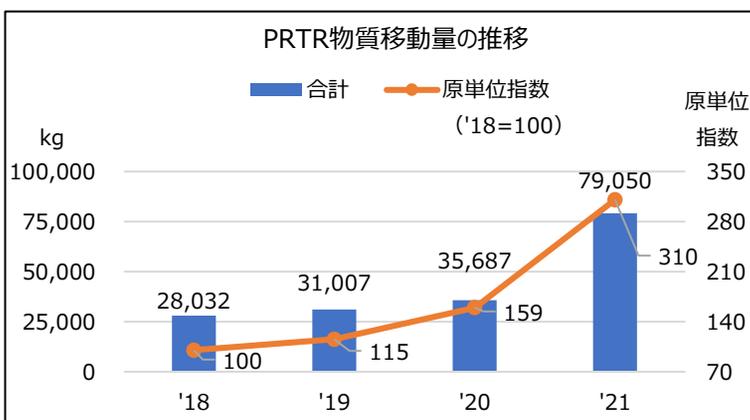
*対象期間2021年1月～2021年12月 *原単位は生産量 (ト) で除した値とし、'18年度を100としています

*社内での測定結果を元に、稼働日数と稼働時間から年間の排出量を算定しています

*水質汚染物質は生分解性（物質が微生物によって分解される性質）の高い製品の生産が増えると増加します

*SS、BOD、CODの意味は「P34/用語集」をご参照ください

■ PRTR対象物質（PRTR対象化学物質の環境への移動量の推移）



PRTR対象物質の環境への移動量は、製品の成分、生産量、不良品の廃棄量によって大きく変化します。2021年はポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル取扱量の増加に伴い、原料が付着した容器や生産設備の洗浄廃液を廃棄物として多量に排出しました。

*対象期間2021年4月～2022年3月（経済産業省への報告年度）

*原単位は生産量 (ト) で除した値とし、'18年度を100としています

*容器や洗浄廃液は産業廃棄物処理業者によって適切に処理されているため、環境への影響はありません

*PRTRの意味は「P34/用語集」をご参照ください

	大気への排出	下水道への移動	廃棄物としての移動
'21	166 kg	716 kg	78,168 kg

社会

Social

社会活動に関する取り組みのトピックスを以下のようにまとめました

- 労働安全衛生マネジメントシステム
- 労働安全衛生目標
- 安全に対する取り組み
- 地域・社会との関わり
- 品質監査、安全衛生監査、環境監査

労働安全衛生マネジメントシステム

当社グループは「日華化学グループ全体の労働災害ゼロ」を経営の大きな柱の一つとして掲げ、労働安全衛生方針（下図参照）を定め、計画的に教育・訓練を実施することで、職場の安全衛生を確保しています。

日華化学単体としては、2019年12月にISO45001（労働安全衛生マネジメントシステム）の認証を取得しました。国内・海外の子会社へも常に情報を共有し、災害の再発及び未然防止に努めています。

労働安全衛生方針

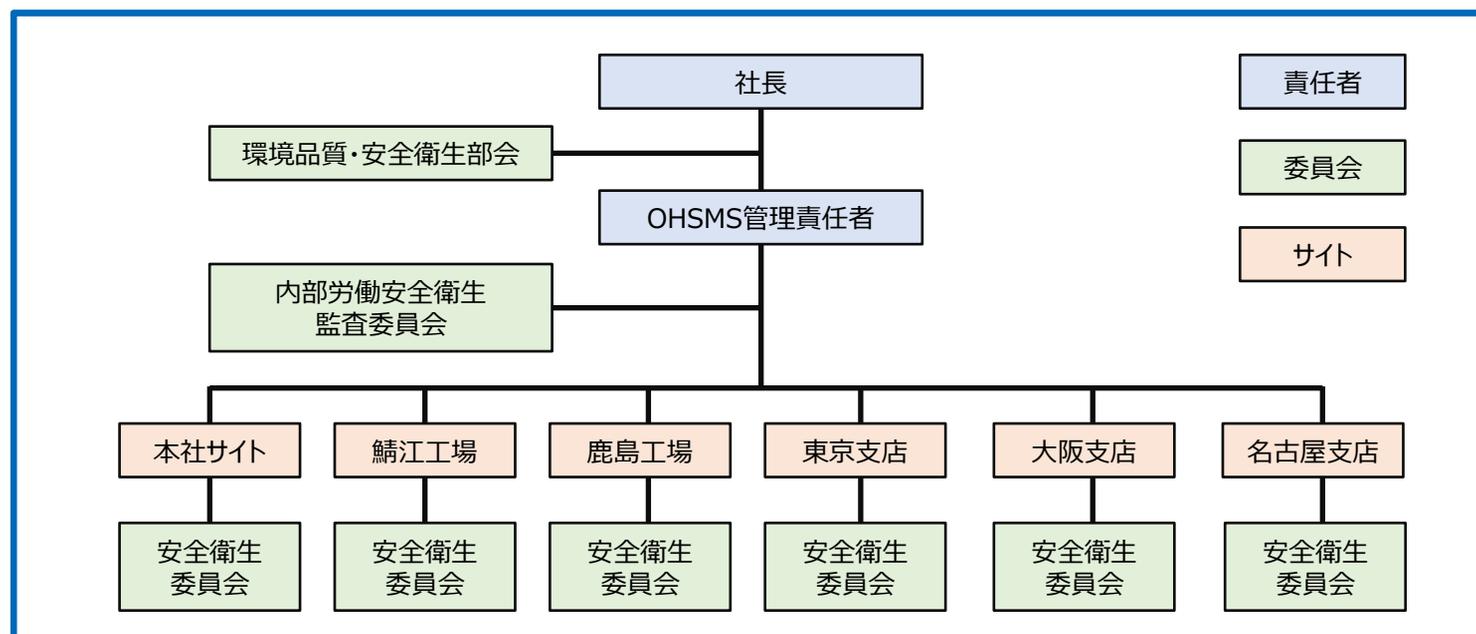
当社は化学メーカーとして、創業以来安全を最優先に社業に取り組んでまいりました。これからも安全や健康を脅かすことの無い作業環境を確保し、従業員及び社会に「安心」を提供することに努め、継続的に改善する管理体制を築いてまいります。

1. 全従業員参加の下、労働安全衛生に係わる法令を順守し、組織的に安全衛生活動を実施します。
2. 会社の安全衛生を継続的に改善するため、計画的に労働安全衛生活動を実施、評価、見直しを行います。
3. ヒューマンエラーを想定した上で、あらゆる危険有害要因を特定、排除し、快適な職場作りと労働災害ゼロを目指します。
4. 全従業員に健康の維持管理と増進の機会を積極的に提供します。

2019年4月1日
日華化学株式会社
代表取締役社長 江守 康昌

労働安全衛生マネジメントシステム組織図

当社の労働安全衛生活動に関する管理体制は、社長が選任した労働安全衛生マネジメントシステム管理責任者（OHSMS管理責任者）のもと、各サイトに安全衛生委員会を設置して安全衛生活動を推進しています。OHSMS管理責任者は、毎年11月下旬～12月上旬の期間中に各サイトの活動状況を社長に報告し、社長から発信される次年度の活動方針を各サイトに指示しています。



日華化学株式会社

労働安全衛生目標

ISO45001認証を取得している各サイトは、全社共通の目標である「労働災害ゼロ」を達成するため、年間を通して様々な取り組みを実施しています。2021年度に掲げた目標と活動の達成状況は下記の通りです。未達となった目標は、次年度も取り組みを継続しています。

【自己評価】○：達成 △：一部分が未達 ×：大きく未達または進捗無し

実施事項	サイト	実績	自己評価
PHS100運動の実践及び「ご安全に！」挨拶の推進 P：適正保護具の着用 (Protector) H：階段の手摺り持ち (Handrail) S：安全通路の歩行 (Safety path)	本社サイト	啓蒙活動を継続的に実施した結果、順守率は向上し約80%は目標達成した	△
	鯖江工場	管理者による抜き打ちチェック実施、約99%目標達成	△
	鹿島工場	管理者による抜き打ちチェック実施、約98%目標達成	△
	東京支店	安全通路を確保するため、整理整頓に努める (支店はPHSのうち、「S:安全通路」を重点的に実施)	△
	大阪支店		
	名古屋支店		
リスクアセスメント*1シートの最新版管理及び再発防止・未然防止対策の実行	本社サイト	リスクの洗い出し、改善が滞っている部署があるため、運用強化を指示	△
	鯖江工場	レベルⅢ（計画的な改善が必要（許容不可））以上の改善100%	○
	鹿島工場	レベルⅡ（改善したほうが良い（許容））以上のリスクを1件/月以上改善	○
	東京支店	保健師の巡回時指摘をリスクアセスメントシートに反映し、改善を実施	△
	大阪支店		
	名古屋支店		
各職場における安全衛生教育・訓練の実施	本社サイト	フロアごとに緊急事態に対する教育、訓練の実施を2件/年以上実施	○
	鯖江工場	防災訓練をはじめとした各種教育・訓練を実施	○
	鹿島工場	防災訓練をはじめとした各種教育・訓練を実施	○
	東京支店	保健師による健康教育の実施、安全運転教育は未実施	△
	大阪支店	ビル火災発生時の安全教育を実施	○
	名古屋支店	ビル管理会社の防災訓練実施、新入社員向け安全教育実施	○
伝染病、感染症（インフルエンザ等）の予防、対策の強化	全サイト共通	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた「県民行動指針」の徹底 ・手指消毒、社内消毒の継続喚起 ・マスクをはじめとした衛生用品の配布 ・ワクチン接種の推進及び接種における服務取り扱いの整備 	○
適正照度の確保	本社サイト	一部フロア全体の照度不足が確認されたため、課題として提議中	△
	鯖江工場	異常なし	○
	鹿島工場	異常なし	○
	東京支店	照度が不足している場所に照明器具を設置	△
	大阪支店	異常なし	○
	名古屋支店	異常なし	○

*1職場にある危険性や有害性を特定し、その危険性や有害性が労働災害につながる可能性と労働災害の程度の度合い（リスク）を見積り、評価すること

安全に対する取り組み

当社グループは安全・安心な職場を作るため、全社員が積極的に様々な安全活動を実施しています。



防災訓練の様子（本社サイト）



毎年、サイト（本社、鯖江工場、鹿島工場）ごとに、地震や火災を想定した防災訓練を実施しています。本社サイトでは「煙体験ハウス」を使った視覚効果体験を実施しました（写真右側）。ビニールハウスの中に無害な煙を充満させ、その中を通り抜けることにより火災発生時の避難状況を疑似体験しました。



新入社員を対象とした消火器訓練（本社サイト）
各部署へ配属される前に、消火器訓練をはじめとした様々な安全教育を実施しています。

こうした活動の成果として、2016年度より当社の「休業4日以上労働災害発生件数（労働者死傷病報告*による）」は「0」に抑えることができています。

*労働安全衛生法等の法令により事業者課せられる報告の一つであり、一定の要件に該当する労働災害が発生したときに労働基準監督署へ提出しなければならない

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
発生件数（件）	1	0	0	0	0	0	0
休業日数（日）	20	0	0	0	0	0	0

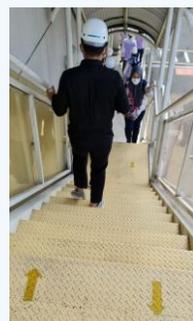
職場の労働災害を防ぐためには、職場における安全確保に向けた取り組みはもとより、全従業員が「安全」について意識を持つことが重要です。より確実に職場の労働災害を抑えるために、まず、日華化学単体（本社サイト、各工場、各支店）にてISO45001を活用した安全衛生文化を醸成し、日華化学グループ全体に安全衛生文化を展開して「日華化学グループ全体の労働災害ゼロ」が達成できるよう努めています。

海外生産拠点の安全に対する取り組み

海外の生産拠点でも防災訓練をはじめとした、安全に対する様々な取り組みを実施しています。



防災訓練の様子（中国の東莞日華新材料有限公司（写真左側）、
韓国のNICCA KOREA CO., LTD.大邱工場（写真右側））



階段に昇降方向を表示、安全通路に一時停止と指差呼称を表示（インドネシアのPT. INDONESIA NIKKA CHEMICALS）



安全に関する8つのシナリオを作成し、シナリオに一番適した保護具を選択する、「保護具選択ゲーム」を開催（アメリカのNICCA U.S.A., INC.）

地域・社会との関わり

当社グループは地域社会との繋がりを大切にし、環境活動、地域共生、次世代育成など、事業を活かした取り組みや地域の課題に応える活動を通じて、社会の持続的発展に貢献してまいります。

■ 事業所周辺地域の清掃活動

本社のある福井県では「クリーンアップふくい大作戦」、鹿島工場のある茨城県神栖市では「環境美化の日、クリーンかみすの日」を実施しています。当社もこうした取り組みに賛同し、事業所周辺の清掃活動を実施しています。

また、海外の子会社においても定期的に事業所周辺地域の清掃活動を実施しています。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大により地域全体での一斉清掃活動が中止・延期となるなど、様々な制限が設けられ、活動規模が縮小していますが、美しいまちづくりを推進するため、感染症防止対策を講じた上で環境美化活動を実施しています。



鹿島工場周辺道路の清掃活動



NICCA KOREA CO., LTD.
大邱工場では、毎朝工場周辺の清掃活動を行っています



本社の社内外一斉清掃活動



鯖江工場周辺道路の清掃活動

■ 地域社会とのコミュニケーション

当社では、2年に1度、本社周辺の地区である福井県福井市春山地区の方々をお呼びして、「いこっさNICCA」という会社見学・実験教室・頭皮診断のイベントを行っており、毎回300人近くの方が来社されていました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、イベントを開催することができなくなってしまいました。

こうした状況の中、地元の春山公民館から「子供たちに化学実験教室を行って欲しい」という要望があり、「いこっさNICCA」から「化学実験教室」と形を変えてコミュニケーションを図りました。化学実験教室では、「マヨネーズは凍らせるとどうなるのか？ 解凍するとどうなるのか？」「好きな香り・色を選んでオリジナル石鹼を作ってもらおう」といった実験を通じて界面科学を体験していただきました。参加者からは「実験楽しかったです。参加して良かったです、ありがとうございました。」といった感想をいただきました。

また、新型コロナウイルスの拡大は学校行事にも大きな影響を与えています。福井県内の小中学校と高校の一部は修学旅行先を県外から県内に変更するなどといった対応を余儀なくされています。

こうした状況の中、福井本社では修学旅行先を県内に変更した学校の希望を受けて、職場見学の受け入れを行っています。学校ごとに担当の先生と相談しながら職場見学の内容を決定し、オリジナルのシャンプー作りを体験してもらうほか、社員とのコミュニケーションの機会を設けるなど、生徒たちの思い出に残るよう工夫しています。生徒の皆さんからは「社員がやりがいをもって働いていることが分かった」「福井の企業の魅力を知ることができた」といった感想をいただきました。



春山地区の親子を対象に化学実験教室を開催

マヨネーズや石鹼など日常で使うものを題材として取り上げ、界面科学を体験していただきました



新型コロナウイルスの影響で修学旅行先を県内に切り替えた若狭町上中学校の生徒たち

見学すると同時に、出会った社員1人1人に質問を次々と行うオリエンティングを行いました

■美容師・サロン関係者様向けの講習 / キュアリストの育成 / 奨学金制度設立

DEMI COSMETICS（デミコスメティクス）は、「商品の知識だけでなく、お客様に役立つ頭皮や髪の知識を提供する」という考えのもと、美容師・サロン関係者様向けの講習に力を入れています。

近年ではオンラインでのセミナーを強化しており、美容師・サロン関係者様の時間効率にも配慮しております。

また、EraL（イーラル）ではヘッドキュアのスペシャリストであるキュアリスト*育成に力を入れているほか、2021年には美容室の未来及び美容を目指す若者をバックアップすることを目的とした、独自の奨学金制度を設立しています。

*EraL（イーラル）の認定を受けた専門スタッフで、修練を積んだヘッドキュア技術（頭皮のコンディションを整えるプログラム）と頭皮や髪の専門知識を習得したスペシャリスト



オンラインセミナーでは、商品、頭皮、髪など、お客様に役立つ知識や情報を、研究責任者が直接解説しています



ヘッドキュアの様子
頭皮と髪のスペシャリストを育成する「キュアリストアカデミー」を毎年実施しています

■留学生への支援

当社の会長であった故江守幹男は、アジア諸国から福井県内の国公立大学に進学または在学する留学生に学資の補助として奨学金を支給することを目的として、1994年に公益財団法人江守アジア留学生育英会を設立しました。

2021年度はコロナ禍で学業環境が悪い中23名の応募があり、福井大学から8名、福井県立大学から3名の計11名（出身国別では、中国8名、ベトナム2名、台湾1名）が奨学生として選ばれました。



認証式の様子

■福井県内での手指消毒剤「エコルセ」の無償提供

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、当社は福井県内の公共施設や交通機関、飲食店、コロナワクチン接種センター等に対し、手指消毒剤「エコルセ」*を無償提供させていただきました。

また、受験シーズンには受験生の皆様がより万全の体制で受験に臨めるよう、「エコルセ」を藤島神社様（福井市）に奉納しました。配布に先立ち「エコルセ」に合格祈願のご祈禱を頂き、合格祈願で同神社を参拝された受験生の皆様への無償提供を行いました。

今後も引き続き、新たに設置されるワクチン接種センターや福井を元気づけるイベント会場等への無償提供を予定しております。



手指消毒剤「エコルセ」



藤島神社様に合格祈願のご祈禱をしていただきました

*手指消毒剤「エコルセ」は、日々の消毒が欠かせない介護従事者の悩みを受け、当社グループ会社である山田製薬(株)にて2011年に誕生しました。医薬部外品としての消毒効果に加えて、4種の保湿成分が潤いを保ち、手肌のバリア機能をサポートします。消毒後すぐに作業が出来るさらさらな使い心地も特徴です。

品質監査、安全衛生監査、環境監査

当社グループの品質、環境、安全衛生に係る内部監査*1を大きく分類すると、「ISO*2内部監査」と「グローバル監査」があります。それぞれの内部監査は毎年必ず実施し、業務上の不正防止や業務効率化の状況を確認し、改善を推進することで、当社グループ経営理念の実現に役立てています。

*1会社内部の人間が行う監査のことで、業務上の不正の防止や、業務の効率化目的で実施します

*2スイスのジュネーヴに本部を置く非営利法人「国際標準化機構」が定めたマネジメントシステムの国際

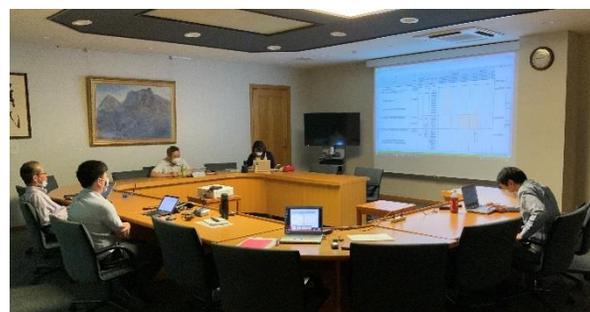
「ISO----」などの番号によって整理され、数字によって管理する内容が異なります

ISO9001は「品質」、ISO14001は「環境」、ISO45001は「労働安全衛生」、ISO22716は「化粧品の品質と安全性」に関する国際規格です

種類	内部監査の中で確認する内容
ISO内部監査 ・ISO9001（品質） ・ISO14001（環境） ・ISO45001（労働安全衛生） ・ISO22716 （化粧品の品質と安全性）	ISOに基づく内部監査は、ISOを取得しているサイト単位で実施しています。 ISOを取得しているサイトは「P33/ISOマネジメントシステム認証取得状況」をご参照ください。 <確認事項> ・ISO規格に適合しているか ・ISOマネジメントシステムが有効に働いており効果が出ているか ・ISOマネジメントシステムに問題が生じていないか
プロダクション部門（生産部門）と品質保証本部によるグローバル監査	グローバル監査は、当社グループ国内外の生産拠点を監査対象として、品質、安全衛生、環境、法令の順守状況と、その仕組みを守るための責任者と管理者を育成するために実施しています。 <確認事項> ・法令に対応しているか、品質、安全衛生、環境を維持向上させる仕組みができていないか ・品質保証と品質管理がグローバルで統一されているか ・人身事故、環境事故などに対して再発しない仕組みが構築されているか ・全生産拠点で統一決定した活動項目をどのように展開しているか ・火災や地震などが起きた際に、誰一人として死傷しないよう教育・訓練を実施しているか

内部監査に関する情報は、国内外の生産拠点間で共有しています。1つの事柄に対しても違った視点で見ることで新たな気づきへと繋がり、改善は更に加速します。

また、こうした内部監査の評価結果、改善の実施状況と改善による効果は速やかに経営層に報告しています。



オンラインツールを用いて実施したグローバル監査の様子
 プロダクション部門（生産管理部、品質管理課）と品質保証本部が製品品質、環境保全、労働安全衛生、法令順守など、それぞれの目線で国内外の生産拠点を監査します



福井県鯖江工場にて行ったISO45001（労働安全衛生）内部監査の様子

ISO45001（労働安全衛生）の内部監査では、ISO45001の規格に基づいて、職場に負傷や疾病に繋がるような危険は潜んでいないか、負傷や疾病の防止対策がなされているか、安全で健康的な職場環境となっているかを監査します

Appendix

- ISOマネジメントシステム認証取得状況
- 用語集

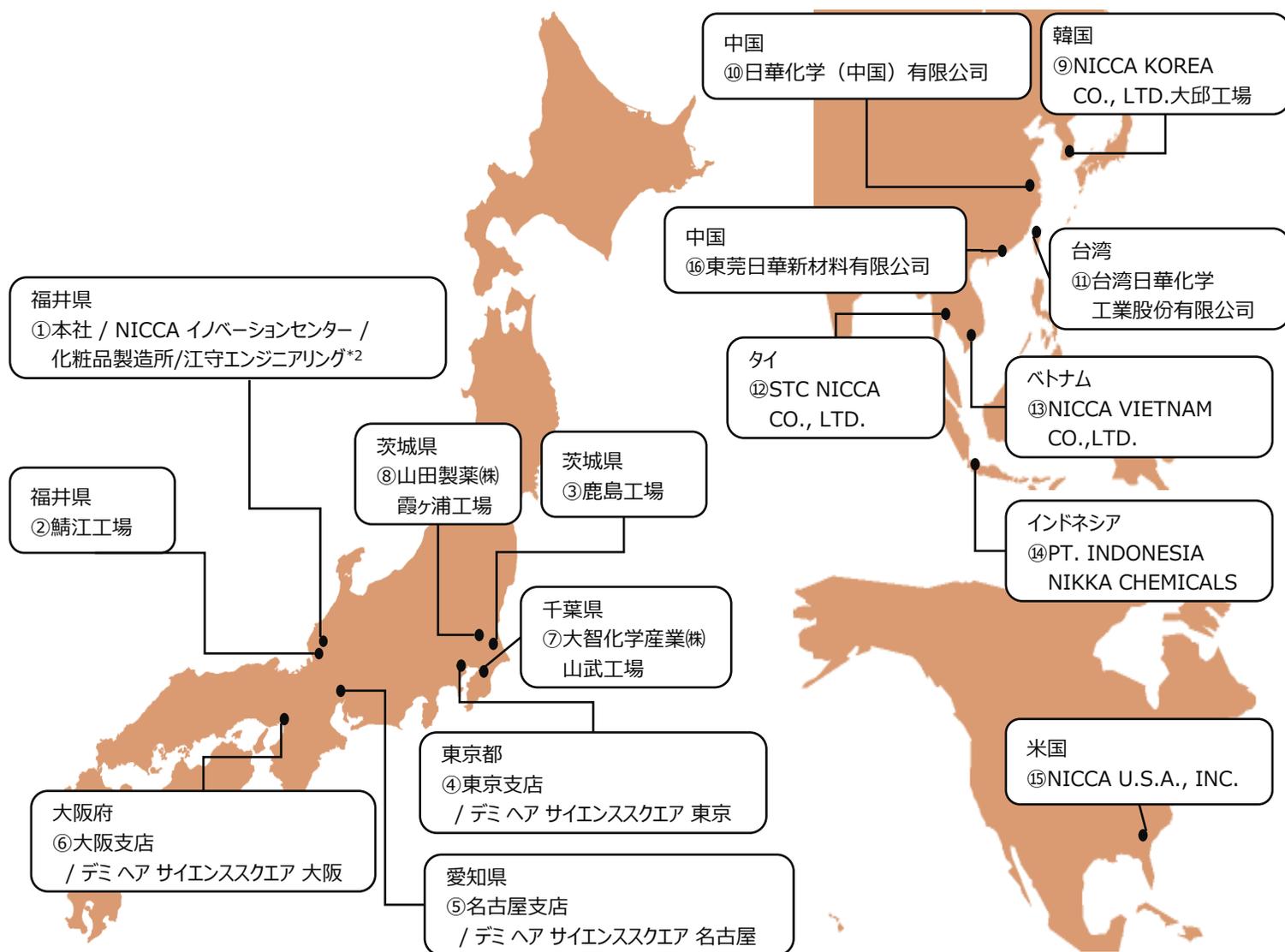
ISOマネジメントシステム認証取得状況

当社グループではISOマネジメントシステム*1を改善の有効なツールとして活用し、主力工場から順次導入し活動しています。

当社グループのISOマネジメントシステム認証の取得状況は以下のとおりです。ISOマネジメントシステムを改善のツールとして有効に活用し、更なるレベルアップを目指してまいります。

国内拠点

海外拠点



位置	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
ISO 9001	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
ISO 14001	○	○	○	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○
ISO 45001	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-	-	○	-	○
ISO 22716	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-

*1スイスのジュネーブに本部を置く非営利法人「国際標準化機構」が定めたマネジメントシステムの国際規格

「ISO----」などの番号によって整理され、数字によって管理する内容が異なります

ISO9001は「品質」、ISO14001は「環境」、ISO45001は「労働安全衛生」、ISO22716は「化粧品の品質と安全性」に関する国際規格です

*2本社のISO22716認証範囲は化粧品関連部署のみ

用語集

用語集では、より補足が必要な用語について記載しています。

BOD (BIOCHEMICAL OXYGEN DEMAND)	生物学的酸素要求量を意味する水の汚染を表す指標で、水中の微生物が有機物を分解する際に消費する酸素量のことです。汚水処理では、最も重要な指標のひとつで、環境基準では河川の汚濁指標として採用されています。BOD値が大きいほど水中の酸素欠乏度合いが高くなることを意味しており、水質の汚濁が進み、悪臭が発生するなど、生物が棲みにくい環境になります。
COD (CHEMICAL OXYGEN DEMAND)	化学的酸素要求量を意味する水の汚染を表す指標で、環境基準では海域及び湖沼の閉鎖性水域の汚濁指標として採用されています。CODでは微生物の代わりに化学物質を使って水の中の酸素量を調べます。COD値が大きいほど水中の酸素欠乏度合いが高くなることを意味しており、水質の汚濁が進み、悪臭が発生するなど、生物が棲みにくい環境になります。
NOx (窒素酸化物)	一酸化窒素、二酸化窒素、亜酸化窒素、三酸化二窒素、四酸化二窒素、五酸化二窒素などの総称。燃料を高温で燃やすことで、燃料中や空気中の窒素と酸素が結びついて発生します。工場や火力発電所、自動車、家庭など発生源は多様です。NOxは光化学スモッグや酸性雨、喘息の原因となり、NOx排出量が大きいほど大気を汚染しているということになります。
Nm ³ (ノルマルリューベ)	空気量の単位で、標準状態（0℃、1気圧）を表すもので、主として排出ガス量等を表す場合に用いられます。1Nm ³ とは、標準状態（0℃1気圧）に換算した1m ³ のガス量を表します。
PRTR (POLLUTANT RELEASE & TRANSFER REGISTER)	人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、事業所から環境（大気、水、土壌）へ排出される量、廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を、事業者が自ら把握し国に届け出をし、国は届出データや推計にもとづき、排出量・移動量を集計・公表する制度（PRTR制度）が2001年4月に施行されました。2002年4月より指定化学物質の排出量・移動量の届出が義務づけられ、経済産業省より公表されています。
SOx (硫黄酸化物)	一酸化硫黄、二酸化硫黄、三酸化硫黄などの総称で、石油や石炭などの化石燃料が燃える際に発生します。日本では高度経済成長の時代に、工場からの煙などに含まれる硫黄酸化物による大気汚染が進行し、大きな問題になりました。SOxは酸性雨や喘息の原因となり（代表的な例として、四日市喘息が挙げられます）、Sox排出量が大きいほど大気を汚染しているということになります。
SS (SUSPENDED SOLIDS)	浮遊物質または懸濁物質を意味する水中に浮遊する不溶解性物質の総称で、水質測定項目の1つです。SSは水質汚染の原因となり、魚類や水生植物に障害を与えます。工場排水、家庭排水などが河川に流出することによってSS量が大きくなり、水の透明度や水質の悪化を招きます。また、SSそのものが魚類のえらを塞ぎ、へい死（動物が突然死ぬこと）の原因となります。
VOC (揮発性有機化合物)	塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーなどに含まれるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどが代表的な有機化合物であり、揮発性を有し、大気中で気体状となります。光化学スモッグを引き起こす原因物質の1つとされています。
環境会計	企業等が持続可能な発展を目指して、社会との良好な関係を保ちつつ、環境保全への取組を効率的かつ効果的に推進していくことを目的として、事業活動における環境保全のためのコストとその活動により得られた効果を認識し、可能な限り定量的（貨幣単位又は物量単位）に測定し伝達する仕組みです。環境省が定めている「環境会計ガイドライン」では、「環境保全コスト」「環境保全効果」「環境保全対策に伴う経済効果」の3つを、盛り込むべき情報として定義しています。
煤塵 (ばいじん)	石油や石炭を燃料とするボイラー、自動車や発電用のディーゼルエンジン、廃棄物焼却炉などから排出される粒子状物質で、物が燃えた際に発生・飛散する微細な物質のこと。



〒910-8670 福井県福井市文京4-23-1
TEL :0776-24-0213 (代) FAX :0776-21-9227

当社の詳細についてはコーポレートウェブサイトをご参照ください
<https://www.nicca.co.jp/>

日華化学

検索



▲QRコードからもコーポレート
ウェブサイトへアクセスできます